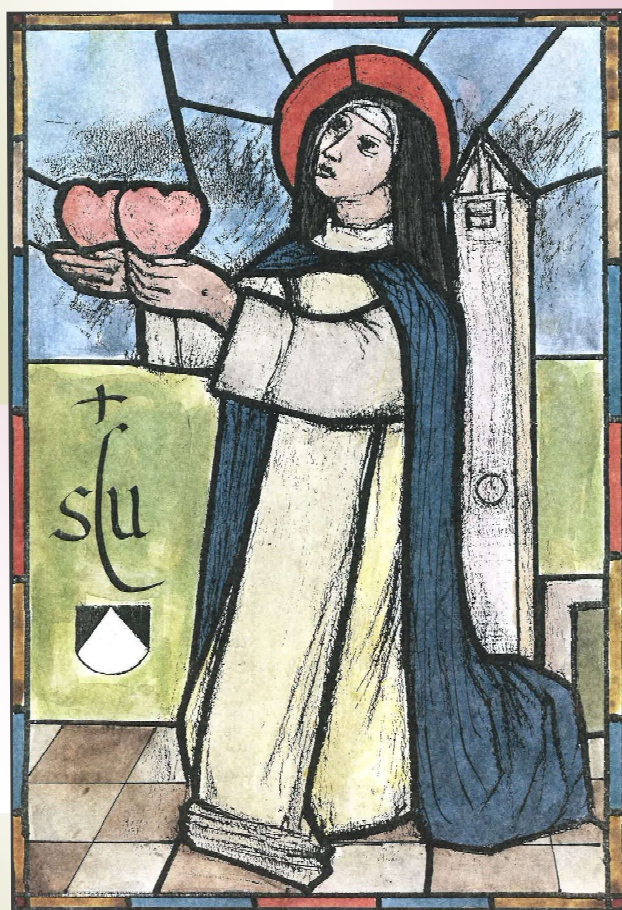


令和7年度事業報告書



アルベルト・カルペンティール宗教画ギャラリー所蔵
水彩画「聖カタリナ」



学校法人 聖カタリナ学園

目 次

I.	はじめに	1
II.	法人の概要	2
	1. 名 称	
	2. 所 在 地	
	3. 認 可 年 月 日	
	4. 理 事 長	
	5. 設置する学校・学部・学科等(令和7年5月1日現在)	
	6. 建 学 の 精 神	
	7. 法 人 の 目 的	
	8. 法 人 の 沿 革	
	9. 役員・評議員・会計監査人の概要	
	10. 教職員の概要(令和7年5月1日現在)	
	11. 設置する学校の学部学科、入学・募集定員数、学生等数の状況(令和7年5月1日現在)	
III.	事業の概要	8
	1. 学園ガバナンスの充実・強化他	
	2. 設置校別 事業の概要	
IV.	財務の概要	45
	(1) 令和7年度決算概要	
	(2) 令和7年度事業活動収支決算概要	
V.	当期に行った主な事業	47
	(1) 固定資産の取得状況(第1号基本金組入れ対象事業)	
	(2) 教育研究経費の主な事業実績	
	(3) 管理経費の主な事業実績	
VI.	計算書類	48
	(1) 貸借対照表(令和8年3月31日現在)	
	(2) 事業活動収支計算書(令和7年4月1日～令和8年3月31日)	
	(3) 資金収支計算書(令和7年4月1日～令和8年3月31日)	
	(4) 活動区分資金収支計算書(令和7年4月1日～令和8年3月31日)	
VII.	財務状況経年推移	52
	1. 貸借対照表(2021年度～2025年度)	
	2. 事業活動収支計算書(2021年度～2025年度)	
	3. 資金収支計算書(2021年度～2025年度)	
	4. 活動区分資金収支計算書(2021年度～2025年度)	
	5. 財務比率表(2021年度～2025年度)	
	【参考】学校法人会計基準について	
VIII.	附属明細書	66

I. はじめに

学校法人聖カタリナ学園は、2025（令和7）年に創立100周年という大きな節目を迎え、その記念すべき一年を皆様とともに歩むことができました。これもひとえに、長年にわたり本学園を支えてくださった皆様の温かいご支援とご尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

1925（大正14）年の創立以来、本学園はカトリック教育の理念のもと、時代の要請に応じた教育の実践に努めてまいりました。そして創立100周年を経た今、次の100年に向けた新たな歩みを始めています。

本学園では、第1期から第3期にわたる中・長期経営計画の成果と課題を踏まえ、今後の学校経営のテーマを「刷新と適応」と決めました。これは、100年にわたり受け継いできた建学の精神と教育理念を大切に守りながら、急速に変化する社会に柔軟に対応していく姿勢を示すものです。

この考え方は、第2バチカン公会議において示された「アジォルナメント（aggiornamento：現代化）」の精神にも通じています。それは、「時のしるし」を見極め、教会の教えやあり方を現代に相応しい形へ整えることを意味し、本学園もまた、教育の本質を大切にしながら、学びの環境や教育方法のさらなる充実に取り組んでまいります。

その具体的な取り組みとして、京都聖カタリナ高等学校では、令和9年4月の開設を目指し、広域通信制課程単位制普通科の設置準備を進めています。また、聖マリア幼稚園では、同じく令和9年4月の幼保連携型認定こども園への移行に向けて準備を進めております。いずれも本学園にとって初めての取り組みであり、多様化する社会や学習ニーズに応えながら、一人ひとりに寄り添う教育の実現を目指す新たな挑戦であります。

本学園は、「刷新と適応」の理念のもと、100年の歴史の中で培われた価値を次代へ継承するとともに、これからの社会が求める教育の実現に向けて歩み続けてまいります。

ここに令和7年度事業報告書をお届けいたします。本報告書を通じて、本学園の取り組みについてご理解を深めていただければ幸いです。今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和8年6月
学校法人聖カタリナ学園
理事長 中田 婦美子

Ⅱ. 法人の概要

1. 名 称 学校法人聖カタリナ学園 (St. Catherine Educational Institution)

2. 所 在 地 愛媛県松山市北条660番地

3. 認 可 年 月 日 1951年(昭和26年)3月8日

4. 理 事 長 中田 婦美子

5. 設置する学校・学部・学科等

(令和7年5月1日現在)

NO	学 校 名	学(校・園)長名	設置認可年月日	所 在 地	男女別
1	聖カタリナ大学 健康社会学部 ・社会福祉学科(2・3・4年) ・人間社会学科(2・3・4年) ・健康スポーツ学科 ・看護学科(3・4年) ・現代人間学科(1年) 看護学部 ・看護学科(1・2年)	坂原 明	S62年12月23日	[北条キャンパス] 愛媛県松山市北条 [松山市駅キャンパス] 愛媛県松山市永代町	共学校
	聖カタリナ大学大学院 ・看護学研究科看護学専攻	坂原 明	R3年8月27日	[松山市駅キャンパス] 愛媛県松山市永代町	共学校
2	聖カタリナ大学短期大学部 ・保育学科	坂原 明	S41年1月25日	愛媛県松山市北条	共学校
3	聖カタリナ学園高等学校 ・普通科 ・総合学科(2・3年) ・看護科 ・看護専攻科	近藤 実	T13年9月30日 (1924年9月30日)	愛媛県松山市藤原町	共学校
4	京都聖カタリナ高等学校 ・普通科 ・看護科 ・看護専攻科	後藤 直樹	S26年10月17日	京都府南丹市園部町	共学校
5	光ヶ丘女子高等学校 ・普通科 ・国際教養科	小林 三佐子	S38年3月20日	愛知県岡崎市大西町	女子校
6	聖マリア幼稚園	高橋 梨恵	S26年3月8日	愛媛県新居浜市繁本町	共学校
7	聖家族幼稚園	江川 由美子	S29年3月20日	京都府南丹市園部町	共学校
8	聖カタリナ幼稚園	梅木 信子	S38年3月20日	愛知県岡崎市大西町	共学校
9	ロザリオ幼稚園	田口 裕子	S40年3月15日	愛媛県松山市室町	共学校
10	聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園	田口 裕子	S46年3月26日	愛媛県松山市北条	共学校

6. 建学の精神

本学は、聖ドミニコ宣教修道女会の設立によるもので、キリスト教の世界観、修道会の創立者聖ドミニコの「真理を観想し、観想の実を他に与える」という精神、そして、聖ドミニコの精神に従って生きたシエナの聖カタリナの模範と教訓を土台として、「建学の精神」を次のように定めている。

1. 本学は、キリスト教的世界観と教育理念に基づいて、世界の平和と人類の共通善を促進する人間の教育を目的とする。
2. 本学は、創立者聖ドミニコの強調した「真理の探求」を通して、普遍的な価値観と高い徳性を有する人間を育成する。
3. 本学は、保護者シエナの聖カタリナの精神と学識にならい、神の愛と人への奉仕に生涯を捧げる人間を育成する。

7. 法人の目的

学校法人聖カタリナ学園は、カトリック教の精神を奉じ、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、世界の平和と人類の共通善を促進する人材を育成することを目的としている。

8. 法人の沿革

1924	(大正 13) 年	9 月	松山美善女学校設置認可(聖ドミニコ宣教修道女会)
1942	(昭和 17) 年	1 月	財団法人松山女子商業学校と改称
1948	(昭和 23) 年	4 月	松山女子商業高等学校と改称(商業科)、新制中学校併設
1951	(昭和 26) 年	3 月	学校法人聖カタリナ学園に改組
1951	(昭和 26) 年	4 月	聖マリア幼稚園(愛媛県新居浜市)を学園に包括
1951	(昭和 26) 年	10 月	学校法人清香学園菊花女子高等学校を吸収合併、聖家族女子高等学校設置(家庭科)(京都府船井郡園部町)
1952	(昭和 27) 年	4 月	聖家族女子高等学校に普通科増設
1954	(昭和 29) 年	4 月	聖家族幼稚園設置(京都府船井郡園部町)
1963	(昭和 38) 年	4 月	光ヶ丘女子高等学校設置(普通科)(愛知県岡崎市)、聖カタリナ幼稚園設置(愛知県岡崎市)
1965	(昭和 40) 年	4 月	学校法人拓川学園拓川幼稚園を吸収合併 ロザリオ幼稚園と改称(愛媛県松山市)
1965	(昭和 40) 年	4 月	聖カタリナ幼稚園教員養成所設置(愛媛県松山市)、昭和 42 年 3 月、同養成所廃止
1966	(昭和 41) 年	1 月	文部大臣所轄の法人となる聖カタリナ女子短期大学設置(幼児教育科、食物科)
1966	(昭和 41) 年	4 月	聖カタリナ女子短期大学開学、幼児教育科、食物科(愛媛県北条市)
1966	(昭和 41) 年	4 月	松山女子商業高等学校に普通科増設
1967	(昭和 42) 年	4 月	松山女子商業高等学校に衛生看護科増設
1968	(昭和 43) 年	4 月	聖カタリナ女子短期大学に音楽科増設(入学定員 50 名)、幼児教育科を児童教育科に名称変更
1968	(昭和 43) 年	4 月	松山女子商業高等学校を聖カタリナ女子高等学校と改称、併設中学校閉校
1970	(昭和 45) 年	4 月	聖カタリナ女子高等学校に衛生看護専攻科(2 年制)設置
1971	(昭和 46) 年	4 月	聖カタリナ女子短期大学児童教育科を児童教育学科、食物科を食物学科に改称、児童教育学科(50 名)を初等教育学専攻(50 名)、幼児教育学専攻(50 名)に分離し、入学定員変更
1971	(昭和 46) 年	4 月	聖カタリナ女子短期大学附属幼稚園設置
1976	(昭和 51) 年	4 月	聖カタリナ女子短期大学児童教育学科幼児教育学専攻の入学定員を変更(50 名→100 名)
1977	(昭和 52) 年	4 月	聖カタリナ女子短期大学に専攻科音楽専攻(1 年制)設置
1980	(昭和 55) 年	4 月	聖家族女子高等学校に衛生看護科設置
1983	(昭和 58) 年	3 月	聖家族女子高等学校家庭科廃止
1987	(昭和 62) 年	12 月	聖カタリナ女子大学設置(入学定員 100 名)
1988	(昭和 63) 年	4 月	聖カタリナ女子大学(社会福祉学部社会福祉学科)開学
1990	(平成 2) 年	4 月	聖カタリナ女子短期大学児童教育学科の専攻(初等教育学専攻、幼児教育学専攻)を廃止し、幼児教育学科に名称変更
1990	(平成 2) 年	4 月	法人の主たる事務所を愛媛県北条市北条 660 番地に変更
1994	(平成 6) 年	4 月	聖カタリナ女子短期大学食物学科を食物栄養学科に名称変更及び入学定員変更(150 名→90 名)
1994	(平成 6) 年	4 月	聖カタリナ女子大学入学定員変更(100 名→160 名)
1995	(平成 7) 年	3 月	聖カタリナ女子短期大学食物学科廃止

1995	(平成 7)年	4 月	聖カタリナ女子大学キリスト教研究所及び人間文化研究所設置
1996	(平成 8)年	4 月	聖家族女子高等学校普通科入学定員変更(90 名→80 名)
1997	(平成 9)年	4 月	聖カタリナ女子大学社会福祉学部社会福祉学科編入学定員設定(3 年次 10 名)
1999	(平成 11)年	4 月	聖家族女子高等学校に衛生看護専攻科(2 年制)設置(入学定員 40 名)
2000	(平成 12)年	4 月	聖カタリナ女子大学社会福祉学部社会福祉学科を社会福祉専攻(入学定員 140 名)と介護福祉専攻(入学定員 20 名)に専攻分離
2000	(平成 12)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学食物栄養学科を健康栄養学科に名称変更し、食物栄養専攻(50 名)と食物健康専攻(40 名)に専攻分離
2001	(平成 13)年	4 月	聖家族女子高等学校を京都聖カタリナ女子高等学校と改称
2001	(平成 13)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学に幼児教育学科及び音楽科を統合改組して保育学科を設置し、乳幼児教育専攻(100 名)と音楽専攻(50 名)に専攻分離
2001	(平成 13)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学専攻科音楽専攻廃止
2002	(平成 14)年	4 月	聖カタリナ女子高等学校衛生看護科を看護科(入学定員 80 名)に名称変更し、5 年一貫教育による看護師養成を導入
2002	(平成 14)年	4 月	京都聖カタリナ女子高等学校衛生看護科を高等看護科(入学定員 40 名)に名称変更し、5 年一貫教育による看護師養成を導入
2002	(平成 14)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学音楽科廃止
2003	(平成 15)年	9 月	聖カタリナ女子短期大学幼児教育学科廃止
2004	(平成 16)年	4 月	聖カタリナ女子大学を男女共学とし、聖カタリナ大学に名称変更 聖カタリナ大学社会福祉学部福祉経営学科(入学定員 100 名、3 年次編入学定員 10 名)を設置し、社会福祉学科社会福祉専攻の入学定員変更(140 名→100 名)
2004	(平成 16)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学を男女共学とし、聖カタリナ大学短期大学部に名称変更 聖カタリナ大学短期大学部保育学科及び健康栄養学科の各専攻(乳幼児教育専攻、音楽専攻、食物栄養専攻、食物健康専攻)を廃止し、入学定員変更(保育学科: 150 名→100 名、健康栄養学科 90 名→50 名)
2004	(平成 16)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学附属幼稚園を聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園に名称変更
2005	(平成 17)年	1 月	市の合併により、法人の主たる事務所の住所表記を愛媛県松山市北条 660 番地に変更
2005	(平成 17)年	4 月	京都聖カタリナ女子高等学校に福祉科(入学定員 40 名)を設置し、普通科の入学定員変更(80 名→40 名) 高等看護科を看護科に名称変更
2006	(平成 18)年	1 月	町の合併により、法人の従たる事務所の住所表記を変更 京都府船井郡園部町美園町一号 78 番地 → 京都府南丹市園部町美園町一号 78 番地
2006	(平成 18)年	4 月	京都聖カタリナ女子高等学校の福祉科を男女共学とし、京都聖カタリナ高等学校に名称変更
2007	(平成 19)年	4 月	京都聖カタリナ高等学校の看護科を男女共学化
2008	(平成 20)年	4 月	聖カタリナ大学に人間健康福祉学部を設置し、社会福祉学科[社会福祉専攻(入学定員 100 名、編入学定員 10 名)、介護福祉専攻(入学定員 20 名)]と健康福祉マネジメント学科[福祉マネジメント専攻、健康スポーツマネジメント専攻](入学定員 100 名、編入学定員 10 名)を設置(これに伴い、社会福祉学部は在学生の卒業を待って廃止)
2008	(平成 20)年	4 月	京都聖カタリナ高等学校の普通科にコース制(フードカルチャーコース、マルチメディアコース、キッズライフコース)を導入し、男女共学化
2008	(平成 20)年	4 月	光ヶ丘女子高等学校の普通科から国際コースを分離し、国際教養科(入学定員 120 名)設置(これに伴い、普通科の入学定員 195 名に変更)
2009	(平成 21)年	4 月	聖カタリナ大学短期大学部健康栄養学科の学生募集を停止
2010	(平成 22)年	4 月	聖カタリナ大学短期大学部健康栄養学科廃止
2011	(平成 23)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部人間社会学科(入学定員 50 名)を設置(これに伴い、人間健康福祉学部の入学定員を 210 名に変更)
2012	(平成 24)年	4 月	聖カタリナ女子高等学校に総合学科(入学定員 450 名)を設置し、商業科の学生募集を停止
2012	(平成 24)年	9 月	聖カタリナ大学社会福祉学部廃止
2013	(平成 25)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部の入学定員を、社会福祉学科[社会福祉専攻(入学定員 60 名、編入学定員 8 名)、介護福祉専攻(入学定員 20 名)]、健康福祉マネジメント学科[福祉マネジメント専攻、健康スポーツマネジメント専攻](入学定員 60 名、編入学定員 8 名)、人間社会学科(入学定員 50 名、編入学定員 4 名)に変更
2014	(平成 26)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部健康福祉マネジメント学科の学生募集を停止 聖カタリナ大学人間健康福祉学部健康スポーツ学科(入学定員 60 名)を設置 聖カタリナ女子高等学校商業科廃止

2016	(平成 28)年	4 月	聖カタリナ女子高等学校の普通科及び総合学科を男女共学とし、聖カタリナ学園高等学校に名称変更。同校の普通科及び総合学科の入学定員変更(普通科 200 名、総合学科 300 名) 京都聖カタリナ高等学校の看護科の入学定員を 64 名に変更し、福祉科の生徒募集を停止
2017	(平成 29)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部看護学科[入学定員 80 名]を設置(平成 28 年 8 月 31 日認可)し、入学定員を社会福祉学科[社会福祉専攻(入学定員 50 名、編入学定員 8 名)、介護福祉専攻(入学定員 20 名)]に変更
2018	(平成 30)年	4 月	京都聖カタリナ高等学校の福祉科を廃止
2018	(平成 30)年	9 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部健康福祉マネジメント学科を廃止
2020	(令和 2)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部社会福祉学科の入学定員を、社会福祉専攻(入学定員 40 名、編入学定員 8 名)、介護福祉専攻(入学定員 20 名)に変更
2021	(令和 3)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部社会福祉学科の専攻を廃止 聖カタリナ大学人間健康福祉学部の編入学定員を社会福祉学科(8 名→2 名)、人間社会学科(4 名→2 名)、健康スポーツ学科(4 名→2 名)に変更 聖カタリナ学園高等学校の看護科を男女共学化 ロザリオ幼稚園及び聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園が子ども・子育て支援新制度における「施設型給付の幼稚園」へ移行
2022	(令和 4)年	4 月	聖カタリナ大学大学院看護学研究科看護学専攻[入学定員 5 名・収容定員 10 名]を設置(令和 3 年 8 月 27 日認可) 聖カタリナ大学短期大学部保育学科の入学定員を 80 名に変更
2023	(令和 5)年	4 月	聖マリア幼稚園が子ども・子育て支援新制度における「施設型給付の幼稚園」へ移行
2024	(令和 6)年	4 月	聖カタリナ大学看護学部看護学科を設置[入学定員 80 名・収容定員 320 名] 聖カタリナ幼稚園が子ども・子育て支援新制度における「施設型給付の幼稚園」へ移行
2025	(令和 7)年	4 月	聖カタリナ大学 人間健康福祉学部を健康社会学部に名称変更し、現代人間学科[入学定員 70 名]を設置 聖カタリナ大学短期大学部保育学科の入学定員を、50 名に変更 聖カタリナ学園高等学校 総合学科を普通科(募集定員 480 名)に統合し、普通科・看護科の 2 科構成に変更
2025	(令和 7)年	5 月	学校法人聖カタリナ学園並びに聖カタリナ学園高等学校創立 100 周年記念式典挙行
2026	(令和 8)年	4 月	聖家族幼稚園が子ども・子育て支援新制度における「施設型給付の幼稚園」へ移行

9. 役員・評議員・会計監査人の概要

(1) 役員・評議員一覧

[理事](令和 8 年 3 月 31 日現在)

定員 9 人・現員 9 人

理事選任機関:理事会(寄附行為第 6 条)

区分	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職
理事長	中田 婦美子	平成 元 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ学園理事長
	池田 愛子	令和 3 年 8 月 5 日	非常勤	宗教法人代表役員
	坂原 明	令和 5 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ大学学長
財務理事 (業務執行理事)	石井 亮	令和 7 年 3 月 31 日	常勤	聖カタリナ学園法人事務局長
	近藤 実	令和 4 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ学園高等学校校長
	竹田 信恵	令和 6 年 4 月 1 日	常勤	聖カタリナ大学短期大学部教授
	小林 三佐子	平成 26 年 4 月 1 日	常勤	光ヶ丘女子高等学校校長
	小池 振一郎	平成 31 年 4 月 1 日	非常勤	弁護士
	小椋 史香	令和 7 年 6 月 28 日	非常勤	

[監事](令和 8 年 3 月 31 日現在)

定員 2 人・現員 2 人

区分	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職
主任監事	森本 三義	平成 30 年 4 月 1 日	非常勤	学校法人役員
	上田 稔	令和 7 年 6 月 28 日	非常勤	保護司

[評議員](令和8年3月31日現在)

定員 11 人・現員 11 人

区分	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職
評議員	後藤 直樹	令和 6 年 4 月 1 日	常勤	京都聖カタリナ高等学校校長
	田口 裕子	令和 6 年 4 月 1 日	常勤	ロザリオ幼稚園園長
	野村 美千江	令和 7 年 3 月 31 日	常勤	聖カタリナ大学教授(副学長)
	越智 禎弘	令和 2 年 4 月 1 日	非常勤	会社員
	西川 重子	令和 3 年 4 月 1 日	非常勤	公務員
	篠原 潤子	令和 5 年 4 月 21 日	非常勤	
	中西 義則	平成 24 年 4 月 1 日	非常勤	会社役員(代表取締役)
	谷水 恭子	令和 3 年 4 月 1 日	非常勤	会社員(執行役員)
	合田 慶子	令和 7 年 6 月 28 日	非常勤	宗教法人役員
	高石 義浩	令和 7 年 6 月 28 日	非常勤	医療法人理事長
	徳丸 一志	令和 7 年 6 月 28 日	非常勤	

(2)会計監査人(令和8年3月31日現在)

項 目	事 項
名 称	愛光監査法人
選任年月日	令和7年6月28日
選 任 機 関	評議員会
選 任 根 拠	寄附行為第50条
任 期	令和7年6月28日開催の定時評議員会終結の時から、1年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結の時までとする。 ただし、当該定時評議員会において別段の決議がなされなかった場合は、再任されたものとみなされる。

(3)役員等の責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況(令和7年7月1日現在)

項目	状況
責任免除	学校法人聖カタリナ学園寄附行為第59条に規定
責任限定契約	学校法人聖カタリナ学園寄附行為第60条に規定 [契約締結者]以下の非業務執行理事3名 監事2名 会計監査人 ・理事(非常勤) 池田 愛子、小池 振一郎、小椋 史香 ・監事(非常勤) 森本 三義、上田 稔 ・会計監査人 愛光監査法人
補償契約	設定していない
役員賠償責任保険契約	私立学校法に従い、理事会決議(令和7年5月24日)により令和7年7月1日から私短協「学校法人向け役員賠償責任保険」に加入した(保険期間:令和7年7月1日から令和8年7月1日)。 [保険概要] ・団体契約者 日本私立短期大学協会 ・引受保険会社 三井住友海上火災保険株式会社 ・被保険者 記名法人:学校法人聖カタリナ学園 個人被保険者:理事 監事 評議員 会計監査人 ・補償内容 記名法人に関する補償 法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等 個人被保険者に関する補償 法律上の損害賠償金、訴訟費用等 ・支払対象とならない主な事由 法律違反に起因する対象事由等 ・保険期間中支払限度額 1億円

10. 教職員の概要

(令和7年5月1日現在・単位:人)

学 校 の 名 称	教 員		職 員		合 計	
	専 任	非常勤	専 任	非常勤	専 任	非常勤
法人本部事務局	—	—	5	2	5	2
聖カタリナ大学	53	98	26	36	79	134
聖カタリナ大学短期大学部	9	16	7	7	16	23
聖カタリナ学園高等学校	60	63	11	20	71	83
京都聖カタリナ高等学校	25	21	3	8	28	29
光ヶ丘女子高等学校	58	26	6	17	64	43
聖マリア幼稚園	8	5	0	5	8	10
聖家族幼稚園	4	9	0	8	4	17
聖カタリナ幼稚園	10	9	0	4	10	13
ロザリオ幼稚園	12	4	1	7	13	11
聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園	4	2	0	4	4	6
合 計	243	253	59	118	302	371

11. 設置する学校の学部学科、入学・募集定員数、学生生徒等数の状況

(各5月1日現在・単位:人)

学 校 の 名 称	学 科	[参考] 前年度(令和6年度)		本年度(令和7年度)	
		入学・募集 定 員	現 員	入学・募集 定 員	現 員
聖カタリナ大学 健康社会学部 看護学部	社会福祉学科 ※2・3・4年	60	132		97
	人間社会学科 ※2・3・4年	50	163		116
	健康スポーツ学科	60	219	70	195
	現代人間学科 ※1年			70	40
	看護学科 ※1・2年(看護学部) 3・4年(人間健康福祉学部)	80	302	80	295
	計	250	816	220	743
聖カタリナ大学大学院	看護学研究科看護学専攻	5	6	5	8
	計	5	6	5	8
聖カタリナ大学短期大学部	保育学科	80	100	50	78
	計	80	100	50	78
聖カタリナ学園高等学校	普通科	200	174	500	286
	総合学科 ※2・3年	300	540		315
	看護科	80	115	80	105
	看護専攻科	(80)	100	(80)	86
	計	580	929	580	792
京都聖カタリナ高等学校	普通科	40	50	40	61
	看護科	64	87	64	58
	看護専攻科	(64)	68	(64)	71
	計	104	205	104	190
光ヶ丘女子高等学校	普通科	195	790	195	768
	国際教養科	120	210	120	207
	計	315	1,000	315	975
聖マリア幼稚園			113		107
聖家族幼稚園			65		60
聖カタリナ幼稚園			183		176
ロザリオ幼稚園			142		135
聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園			22		21
合 計		—	3,581	—	3,285



Ⅲ. 事業の概要

1 学園ガバナンスの充実・強化他

1. 理事会・評議員会の開催状況

本年度は、理事会を13回、評議員会を5回開催した。理事会および評議員会においては、前年度の事業報告および決算、本年度予算(補正予算を含む。)並びに次年度予算編成方針等の財務に関する事項のほか、人事計画、固定資産の取得・処分、学則および就業規則をはじめとする諸規程の制定・改正並びに設置校の運営に関する重要事項について審議又は報告を行った。

理事、評議員および監事の出席状況は概ね良好であり、オンラインによる参加も活用した。また、欠席した理事および評議員に対しては議事録の写しを送付し、審議結果の共有を図った。

2. 令和7(2025)年4月1日施行の改正私立学校法への対応

令和7(2025)年4月1日の改正私立学校法施行に伴い、寄附行為および関係諸規程の整備を行うとともに、新たなガバナンス体制へ移行した。また、法改正を踏まえて内部統制システムを整備し、その実効性の維持および向上に継続的に取り組むことで、適正かつ透明性の高い学校法人運営の推進に努めている。

3. 「第3期中・長期経営計画(令和3～7年度)」への取り組み

本年度は、「第3期中・長期経営計画(令和3～7年度)」の最終年度として、見直し後の計画に基づき、各学校において計画目標の達成に向けた取組を推進した。

同計画において設定した、経営改善に係る具体的数値目標およびその実績は以下のとおりである。

【第3期中・長期経営計画 経営改善に係る具体的数値目標およびその実績】

(1) 学生・生徒・園児数

単位: 人

	令和3年度 中計初年度	令和4年度 2年目	令和5年度 3年目	令和6年度 4年目	令和7年度 最終年度
当初計画	4,069	3,951	3,696	4,019	4,018
見直し計画	4,174	4,175	3,928	3,596	3,426
実績	4,174	4,175	3,928	3,581	3,285
差異(vs当初計画)	105	224	232	△ 423	△ 592
差異(vs見直し計画)	0	0	0	△ 15	△ 141

(2) 専任教職員数

単位: 人

	令和3年度 中計初年度	令和4年度 2年目	令和5年度 3年目	令和6年度 4年目	令和7年度 最終年度
当初計画	339	338	338	337	337
見直し計画	333	333	337	332	327
実績	333	333	338	326	302
差異(vs当初計画)	△ 6	△ 5	△ 1	△ 5	△ 10
差異(vs見直し計画)	0	0	1	△ 6	△ 25

(3) 収支バランス

① 教育活動資金収支差額

単位: 千円

	令和3年度 中計初年度	令和4年度 2年目	令和5年度 3年目	令和6年度 4年目	令和7年度 最終年度
当初計画	266,477	546,868	414,249	456,931	399,653
見直し計画	321,749	395,377	252,221	186,618	111,679
実績	321,749	395,377	238,851	156,682	19,524
差異(vs当初計画)	55,272	△ 151,491	△ 162,028	△ 270,313	△ 287,974
差異(vs見直し計画)	0	0	△ 13,370	△ 29,936	△ 92,155

② 経常収支差額

単位:千円

	令和3年度 中計初年度	令和4年度 2年目	令和5年度 3年目	令和6年度 4年目	令和7年度 最終年度
当初計画	△ 175,811	△ 70,881	△ 3,579	49,900	22,800
見直し計画	△ 71,843	△ 9,911	△ 156,834	△ 306,792	△ 356,276
実績	△ 71,843	△ 9,911	△ 131,823	△ 273,599	△ 308,984
差異(vs当初計画)	103,968	60,970	△ 153,255	△ 356,692	△ 379,076
差異(vs見直し計画)	0	0	25,011	33,193	47,292

③ 基本金組入前当年度収支差額

単位:千円

	令和3年度 中計初年度	令和4年度 2年目	令和5年度 3年目	令和6年度 4年目	令和7年度 最終年度
当初計画	△ 101,910	60,624	△ 14,706	30,563	3,756
見直し計画	227,018	△ 31,194	△ 157,206	△ 255,297	△ 326,505
実績	227,018	△ 31,194	△ 122,488	△ 220,842	△ 345,706
差異(vs当初計画)	328,928	△ 91,818	△ 142,500	△ 285,860	△ 330,261
差異(vs見直し計画)	0	0	34,718	34,455	△ 19,201

上記のとおり、見直し後の計画と実績を対比すると、収支の基礎となる学生・生徒・園児数および専任教職員数はいずれも計画を下回る結果となった。特に、収入の基礎となる学生・生徒・園児数の減少に対し、教育研究水準の維持のため専任教職員数を同程度に削減することができず、人件費負担が相対的に増加したことが収支に大きな影響を及ぼした。

これを踏まえた収支状況については、教育活動資金収支差額および基本金組入前当年度収支差額は計画未達成となったものの、経常収支差額については計画を達成する結果となった。

また、基本金組入前当年度収支差額については、令和7年度において学校法人会計基準の改正による影響を受けたことから計画未達成となったが、その影響(147百万円)を除外した場合には計画を達成している。

しかしながら、事業活動収支に係る各収支差額はいずれも赤字となっていることから、依然として厳しい財務状況にあるものと認識している。今後も学生・生徒・園児数の確保を最重要課題としつつ、経費の効率的な執行と収益基盤の強化を図り、持続可能な財務運営の実現に向けて継続的に取り組む必要がある。

4. 「第4期中・長期経営計画(令和8～12年度)」への取り組み

本年度において、次年度から開始する「第4期中・長期経営計画(令和8～12年度)」の策定作業を進めた。本学園の中・長期経営計画は、「財務改善を図り、もって健全な経営と教育研究活動の発展に資すること」を目的として策定するものであり、各学校においてこれまでの取組成果や課題を踏まえた次期計画案を作成し、法人本部において学園全体の計画として取りまとめを行った。

令和8年3月23日(月)に開催した第14回中・長期経営計画委員会において当該計画案の審議を行った結果、一部の学校における財務改善計画について更なる検討が必要であるとの意見が示されたことから、計画案の修正を行うこととし、評議員会および理事会への付議を延期した。なお、修正後の計画案については、令和8年度に改めて中・長期経営計画委員会における審議を経て、評議員会および理事会へ付議することとしている。

5. 令和7年度(第17回)幼稚園連絡協議会を開催

令和8年2月2日(月)、「第17回幼稚園連絡協議会」を開催した。当日は、教職員の待遇改善に関し、法人本部から給与規程改正案の提案があり、協議の結果、原案どおり了承された。また、各幼稚園の経営状況について報告および情報共有を行うとともに、園児募集や人材確保など共通する課題への対応について意見交換を行い、今後の幼稚園運営に資する協議を行った。

6. 三様監査の充実

○会計監査

(前年度会計監査結果)

前年度(令和6年度)決算に係る会計監査の結果については、令和7年6月2日付で会計監査人から理事会宛てに「独立監査人の監査報告書」が提出され、その内容は理事会および評議員会に報告された。監査報告書においては、計算書類等が学校法人会計基準に準拠し、当該会計年度の経営の状

況および会計年度末における財政状態を適正に表示している旨の監査意見が表明された。

(会計監査人の選任)

令和7年度第2回(令和7年6月28日(土)開催)の評議員会において、改正私学法に係る対応として、寄附行為第50条に基づき、会計監査人として愛光監査法人を選任した。なお、その任期は、令和7年6月28日開催の定時評議員会終結の時から、1年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結の時までとする。ただし、当該定時評議員会において別段の決議がなされなかった場合は、再任されたものとみなされる。

(本年度会計監査結果)

本年度の会計監査は、私立学校法および私立学校振興助成法に基づき実施され、上半期会計監査を令和7年10月20日(月)～令和7年11月11日(火)に、下半期会計監査を令和8年3月16日(月)～令和8年5月23日(土)に、設置校および学校法人にて実施した。

上半期に係る会計監査について、設置校別に会計監査を実施した後、「上半期監査結果報告書」として纏められ、監事監査の結果とともに令和7年度第4回評議員会・第8回理事会(令和7年11月29日(土)開催)において報告された。

本年度決算に係る会計監査の結果については、令和8年6月8日付で会計監査人から理事会宛てに「独立監査人の監査報告書」が提出され、その内容は理事会および評議員会に報告された。監査報告書においては、計算関係書類等が学校法人会計基準に準拠し、当該会計年度の財産および収支の状況を適正に表示している旨の監査意見が表明された。

○監事監査

本年度は、「令和7年度監事監査計画」(令和7年度第5回理事会(令和7年7月25日(金)開催)にて報告)に基づき、監事は原則として週1回の執務日に加え、経営上の重要な会議への出席等を通じて、学園経営(教学関係を含む)に関する情報収集および課題の抽出を行っている。これにより、法人の会計および業務執行等が適正に行われているかを継続的に確認している。

また、教学監査においては、大学(短期大学)学長宛に「教授会議事録に係る要望書」他を発出し、改善に向けた提案を行った。

○内部監査

本年度の内部監査は、「令和7年度内部監査計画」(令和7年度第5回理事会(令和7年7月25日(金)開催)にて承認)に基づき実施した。本年度は、「固定資産の管理状況確認」を最重点項目として掲げ、学校法人(各学校)における業務の適正化および効率化の推進を目的として監査を実施した。

なお、内部監査の結果については、令和8年度第5回理事会(令和8年7月31日(金)開催予定)にて報告する予定である。

7. 学校法人聖カタリナ学園 聖カタリナ大学・同短期大学部ガバナンス・コードの遵守状況

本学園は、寄附行為第3条に定める教育目的(カトリック教の精神を奉じ、教育基本法および学校教育法に従い、学校教育を行い、世界の平和と人類の共通善を促進する人材を育成すること)に基づき、主体性を重んじ公共性を高める自律的なガバナンスを確保し、時代の変化に対応した大学(短期大学)づくりを進めることを目的に、一般社団法人日本私立大学連盟が定め、公表する「私立大学ガバナンス・コード」に準拠して「学校法人聖カタリナ学園 聖カタリナ大学・同短期大学部ガバナンス・コード」を策定している(令和3年度第8回理事会(令和3年10月22日(金)開催)にて承認)。

また、同ガバナンス・コードについて、令和7年度における遵守状況を点検し、報告書として纏められ、令和8年度第1回評議員会・第2回理事会(令和8年5月30日(土)開催)において報告された。

これらは、大学ウェブサイトを通じて広く社会に公表している。

8. 学校法人聖カタリナ学園創立 100 周年記念式典を挙

令和 7 年 5 月 23 日(金)、愛媛県県民文化会館において、学校法人聖カタリナ学園並びに聖カタリナ学園高等学校創立 100 周年記念式典を挙



式典では、理事長式辞、学校長挨拶および来賓祝辞に続き、光ヶ丘女子高等学校吹奏楽部による演奏のもと「聖女カタリナ」および「聖カタリナ讃歌」の斉唱を行った。また、第 2 部では、カトリック大阪高松大司教区名誉司教 諏訪榮治郎氏による基調講演、創立 100 周年記念映像の上映および光ヶ丘女子高等学校吹奏楽部によるミニコンサートを実施し、学園の 100 年にわたる歩みを振り返るとともに、次代に向けた学園の発展を展望する機会となった。



なお、同日には創立 100 周年記念事業の一環として、光ヶ丘女子高等学校、愛媛県立松山東高等学校および松山市立西中学校の各吹奏楽部によるジョイントコンサートを開催し、地域との連携および交流の促進を図った。



2 設置校別 事業の概要

■大学・短期大学部関連

《聖カタリナ大学・同短期大学部》

【教育・研究】

1. 聖カタリナ大学健康社会学部現代人間学科を設置(令和7年4月1日)

令和7年4月1日、社会福祉学科と人間社会学科を改編して新学科「現代人間学科」を開設した。

現代人間学科では、社会学・社会福祉学を基礎に、心理学の視点も用いて、現代における多様な人間と社会の有り様を理解するとともに、それらの抱える諸課題を発見し、それらの課題の解決を統計学やデータサイエンスの知識も活用して探求することにより、持続可能な地域社会の営みに広く貢献できる人材の養成を目指している。また、現代人間学科では、社会学、心理学、社会福祉学、データサイエンスに関する多様な資格の取得も可能とする。

また、本改編に伴い、学部を設置する「現代人間学科」および「健康スポーツ学科」の中心的な学問分野が「社会」と「健康」であることを踏まえ、学科の教育内容と学部名称との整合性を図るため、学部名称を「人間健康福祉学部」から「健康社会学部」へ変更した。

このことにより、聖カタリナ大学は、令和7年4月1日から2つのキャンパス(北条キャンパス・松山市駅キャンパス)に2学部3学科(看護学部 看護学科、健康社会学部 現代人間学科・健康スポーツ学科)の構成となる。

【現代人間学科の概要】

取得学位： 学士(現代人間学)
入学定員： 70名(男女共学) 編入学定員： 2名(男女共学)
修業年限： 4年
開設時期： 令和7年4月1日
設置場所： 聖カタリナ大学北条キャンパス内
〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

【令和7年4月からの学部・学科構成】

聖カタリナ大学

・健康社会学部	入学定員 140名	3年次編入学定員 4名
現代人間学科	(70名)	(2名)
健康スポーツ学科	(70名)	(2名)
・看護学部	入学定員 80名	
看護学科	(80名)	

2. 前年度 FD 活動実績を報告

令和7年5月開催の大学教授会および短大教授会において、各FD委員会調整役より前年度のFD活動に係る実績報告が行われた。前年度に実施されたFD活動として、新任教員研修や授業公開、授業改善調査(前期・後期)、学生による授業改善アンケート、外部講師を招いての学内FD研修会などが報告された。また、本年度も引き続き、学内FD研修会およびSPOD研修(最低2年間に1回)への参加、授業公開の参観など、教育能力の向上と教育方法の改善に積極的に取り組むよう要請があった。

3. 令和7年度授業公開

大学・短期大学部はそれぞれ以下の日程で、前期・後期の授業を本学の教職員および保護者を対象に公開した。この授業公開は、FD活動の一環として毎年定期的実施されており、教育の質向上の一助としている。

- ・大 学： 前期／6月9日(月)～6月27日(金)、後期／11月10日(月)～11月28日(金)
- ・短 大： 前期／6月9日(月)～6月27日(金)、後期／11月19日(水)～12月9日(火)

4. 学内 SD 研修会を実施

以下の学内 SD 研修会を大学・短期大学部合同で開催した。

【夏季 SD 研修会】

令和 7 年 8 月 29 日(金)、レインボープライド愛媛代表のエディ氏を講師に迎え、夏季 SD 研修会を開催した。当日は、「性的マイノリティ理解促進セミナー」として、性的マイノリティを取り巻く現状や多様な性に関する理解促進について講演が行われ、教職員の理解を深める機会となった。

5. 庄野亜矢子講師が第 21 回日本クリティカルケア看護学会学術集会で最優秀演題賞を受賞

看護学科 庄野亜矢子講師が、令和 7 年 7 月 5 日・6 日に東京都で開催された「第 21 回日本クリティカルケア看護学会学術集会」において、最優秀演題賞を受賞した。

庄野講師の研究演題「COVID-19 に対峙したクリティカルケア看護師のモラルディストレスの様相—倫理的局面に着目して—」は、優秀演題 4 題の一つに選出されており、学術集会当日のプレゼンテーション審査を経て最優秀演題に選ばれた。

本研究は、救急看護認定看護師としての専門的視点を活かした研究成果であり、丁寧な分析に基づく結果および考察が高く評価された。



6. 大上紋子教授令和 7 年度生涯スポーツ功労者表彰(文部科学大臣表彰)を受賞

令和 7 年 10 月 16 日(木)、中央合同庁舎(東京都)において、令和 7 年度生涯スポーツ功労者表彰式が開催され、保育学科 大上紋子教授が、スポーツ庁より「生涯スポーツ功労者」として表彰された。

本表彰は、地域または職域におけるスポーツの健全な普及と発展に貢献し、地域スポーツ振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者等に対し、文部科学大臣より贈られるものである。



7. 日本社会福祉学会 中国・四国ブロック 第 56 回愛媛大会を開催

令和 7 年 7 月 12 日(土)、松山市駅キャンパスにおいて、「日本社会福祉学会 中国・四国ブロック 第 56 回愛媛大会」を開催した。本大会は、本学の坂原明学長が大会長、現代人間学科の村岡則子教授が実行委員長を務め、県内外から学会員、大学教員、行政職員、社会福祉関係者、大学院生・大学生ら 150 名を超える参加があった。

当日は、内閣府孤独・孤立対策推進室の古居直高氏による、孤独・孤立の現状や孤独・孤立対策推進法に関する講演が行われた。また、シンポジウムでは「実践活動からみる孤独・孤立支援の現状と今後の課題」をテーマに、実践者 4 名による活発な議論が展開された。



8. 「大学コンソーシアムえひめ」インターンシップ研修報告会を開催

令和 7 年 11 月 10 日(月)、本学が加盟する「大学コンソーシアムえひめ」が実施するインターンシップ研修に参加した人間社会学科 3 年生による、研修報告会を開催した。当日は、夏期インターンシップに参加した学生約 20 名が 2 教室に分かれて報告を行い、受け入れ事業所関係者にも出席いただいた。学生は事業所からの研修評価を踏まえ、自身の長所や課題、今後の目標につ



いて振り返りながら発表を行った。本報告会は、研修成果の共有に加え、業界研究の機会としても実施しており、学生たちは積極的に質疑応答を行うなど、就職活動に向けた学びを深めた。受け入れ事業所の皆様に対し、改めて感謝申し上げる。

9. 中・四国保育学生研究大会に参加

令和7年11月29日(土)、岡山大学で開催された「第66回 中・四国保育学生研究大会」に、保育学科2年生5名が参加した。本大会には、中・四国地方の32校から約900名の保育学生が参加し、各校が日頃の研究成果について発表を行った。本学学生は、「野菜で子育て支援～地域に広げる食育活動について～」をテーマに発表を実施した。発表では、夏季に開催した「親子料理教室」、10月の大学祭、11月に地域の集会室や畑で開催した「収穫祭」など、学生自身が企画・運営した親子参加型活動について報告した。また、他大学の研究発表を通じて新たな視点や学びを得ることができ、学生同士が相互に交流を深める貴重な機会となった。



10. 資格試験等の合格状況

令和7年度の主な資格試験等の合格状況は以下のとおりである。

- 令和7年度社会福祉士国家試験
社会福祉学科4年生25名が受験し、22名が合格した。
- 令和7年度精神保健福祉士国家試験
社会福祉学科4年生6名が受験し、6名全員が合格した。
- 令和7年度介護福祉士国家試験
社会福祉学科4年生6名が受験し、6名全員が合格した。
- 令和7年度健康運動実践指導者認定試験(公益財団法人健康・体力づくり事業財団)
健康スポーツ学科3年生・4年生2名が受験し、2名とも合格した。
- 令和7年度看護師国家試験
看護学科4年生87名が受験し、84名が合格した。
- 令和7年度保健師国家試験
看護学科4年生15名が受験し、12名が合格した。

11. 令和7年度卒業生の就職状況

令和7年度卒業生の就職状況(就職率)は、新卒採用を取り巻く環境も大きく変化する中で、学内における就職支援の充実を図り、大学は94.4%という高水準を維持した。学科別では、社会福祉学科97.4%、人間社会学科85.4%、健康スポーツ学科91.7%、看護学科は100.0%となった。また、短期大学部(保育学科)の就職率は94.4%となり、内定者のうち保育専門職に就く学生の割合は88.2%と、毎年高い比率を維持している。

【学生生活】

12. 令和7年度入学式を挙行

令和7年4月3日(木)、松山市民会館において令和7年度入学式を挙行し、新入生が新たな学生生活の第一歩を踏み出した。式典では、学長が式辞にて、「本学での学びを通して専門的な知識や技能を身に付けるとともに、多様な価値観に触れながら自らの可能性を広げてほしい」と新入生を激励した。



13. カタリナウェルカムキャンパスを全学科で実施

学科ごとの新入生歓迎イベント、「カタリナウェルカムキャンパス(通称「カタキャン」)」を、4月に全学科で実

施した。「カタキャン」は、聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部の伝統行事の一つで、在学生の学生スタッフが新生を対象に、アットホームな雰囲気で開催・運営を行っている。

14. 看護学科卒業生による病院紹介を実施

令和 7 年 5 月 2 日(金)、看護学部において、卒業生と在生をつなぎ、就職活動に資することを目的とした新たな取組として、卒業生による病院紹介を実施した。卒業生からは、勤務先病院の特徴や働き方、教育体制等について具体的な説明が行われた。

当日は、3・4 年生を中心に多くの希望者が参加し、愛媛県立中央病院、西条中央病院、住友別子病院、松山市民病院、松山赤十字病院の 5 施設について説明を受けた。卒業生と在生との間では活発な交流が行われ、和やかな雰囲気の中で実施された。

参加した卒業生は計 11 名であり、卒業生が各医療現場で活躍する姿を確認する機会となった。なお、同企画は令和 8 年 3 月にも実施した。



15. 「母をたたえる日」を開催

聖母マリアをたたえる宗教行事「母をたたえる日」が、北条キャンパスにおいては令和 7 年 5 月 14 日(水)に、松山市駅キャンパスにおいては 5 月 7 日(水)にそれぞれ開催された。ヨセフ郷神父様からの講話や学生による献花・共同祈願等の聖母マリアへの祈りなど、厳かな雰囲気の中で行われた。

16. 令和 7 年度 ボランティアウィーク 開催

令和 7 年 7 月 7 日(月)～11 日(金)、学生ボランティアセンター主催によるボランティアウィークを実施した。

本イベントは、高大連携事業としても実施され、北条キャンパス、松山市駅キャンパス、聖カタリナ学園高等学校および北条高等学校の 4 会場において短冊募金を実施した。ボランティアウィーク期間中に集まった募金額 24,291 円は、社会福祉法人松山市社会福祉協議会「松山市まごころ銀行」に寄付し、松山市の地域福祉活動に活用される。



17. 「ハンドベルの集い 2025」に参加

令和 7 年 11 月 8 日(土)、松前総合文化センターで開催された「ハンドベルの集い 2025」に、本学のハンドベルリンガーズ(部)が出演した。本イベントは初開催となるもので、ハンドベルに携わる 6 団体が参加し、それぞれ演奏を披露した。本学学生にとっても、普段交流の少ない団体との共演を通じて、ハンドベル演奏の魅力や表現の幅を学ぶ貴重な機会となった。

今回の経験を今後の演奏活動へ活かしていくことが期待される。



18. 入学予定者対象「スプリングセミナー」を開催

令和 8 年 3 月 12 日(木)、次年度入学予定者を対象に、学修意欲の向上および学生間の交流促進を目的とした「スプリングセミナー」を開催した。当日は北条キャンパスにおいて実施し、参加者は当初緊張した様子も見られたが、グループワークを通じて次第に打ち解け、会場には多くの笑顔が見られた。また、学生同士だけでなく教職員との交流も行われ、入学前に相互理解を深める貴重な機会となった。

本セミナーを通じて、新生が新たな仲間とともに大学生活をスタートするきっかけづくりを行うことができた。



19. 令和 7 年度卒業式を挙行

令和 8 年 3 月 16 日(月)に、令和 7 年度聖カタリナ大学短期大学部、聖カタリナ大学卒業証書・学位記授与式、聖カタリナ大学大学院修了証書・学位記授与式を松山市民会館において挙行了。当日は厳かな雰囲気の中、卒業生・修了生はガウンと角帽で正装し、聖歌斉唱や聖書朗読が行われた。



20. スポーツ部の活躍

○サッカー部(強化指定クラブ)

- ・「第 79 回国民スポーツ大会 第 46 回四国ブロック大会」の愛媛県成年男子代表として、本学サッカー部から 10 名の学生が選出された。また、国体スタッフとして、本学サッカー部スタッフの大野および朴が選出された。大会は、令和 7 年 8 月 9 日(土)・10 日(日)に行われ、愛媛県代表は決勝で香川県代表に敗れたため、本大会出場には至らなかった。
- ・令和 8 年 2 月 18 日(水)～22 日(日)に行われた「第 40 回 デンソーカップチャレンジサッカー刈谷大会プレーオフ(主催:公益財団法人日本サッカー協会・一般財団法人全日本大学サッカー連盟)」に、四国選抜として、本学から選手 8 名およびスタッフ 1 名(監督)が参加した。
- ・令和 8 年 2 月 14 日(土)、愛媛サッカーアウォーズ 2025(愛媛県サッカー協会表彰)において、本学から 8 名の選手が 2025 年度愛媛県優秀選手として選出された。
- ・令和 7 年 5 月 17 日(土)、四国大学サッカーリーグ第 5 節「聖カタリナ大学対松山大学」戦の前座イベントとして、親子サッカー教室を開催した。当日は大雨予報の影響により、急遽会場を大学内の室内練習場「デポルテ」へ変更して実施したが、20 組の親子に参加いただき、終始賑やかな雰囲気の中で開催することができた。参加者からは好意的な声が多く寄せられ、親子でサッカーに親しむ機会を提供することができた。また、チラシ配布に協力いただいた関係各所ならびに、当日の運営に協力いただいた松山大学サッカー部の皆様に感謝申し上げます。今後も、愛媛県サッカー界を担う子どもたちの育成と地域スポーツ振興に貢献できるよう、聖カタリナ大学サッカー部として継続的に活動へ取り組んでいく。



○剣道部(強化指定クラブ)

- ・令和 7 年 8 月 17 日(日)、「国民スポーツ大会第 46 回四国ブロック大会・剣道競技」において、愛媛県代表選手として出場した健康スポーツ学科 助教馬越千里選手(顧問)が、剣道競技・成年女子の部(大将)において優勝した。また、令和 7 年 9 月 29 日(月)～10 月 1 日(水)に滋賀県で開催された「第 79 回国民スポーツ大会剣道競技」に出場した(通算 15 回目の国民スポーツ大会出場)。



○女子バスケットボール部(強化指定クラブ)

- ・令和 7 年 5 月 10 日(土)～18 日(日)、2025 年度全四国大学バスケットボール春季大会において、優勝の成績を収めた。
- ・令和 7 年 6 月 1 日(日)、「男子第 75 回女子第 74 回西日本学生バスケットボール選手権大会」に、出場した(4 年連続)。
- ・令和 7 年 10 月 11 日(土)・12 日(日)・18 日(土)・19 日(日)、「2025 年度全四国大学バスケットボール秋季大会(通称:インカレ予選)」において優勝(4 年連続・創部 5 年目)し、全日本大学バスケットボール選手権大会(インカレ)に出場することが決定した。
- ・令和 7 年 12 月 6 日(土)・8 日(月)、「第 77 回全日本大学バスケットボール選手権大会(通称:インカレ)」に出場し、グループステージ(予選リーグ)敗退(2 敗)となった。



○硬式野球部(強化指定クラブ)

- ・令和 7 年度四国地区大学野球連盟春季リーグ戦において、2018 年の創部以来初のリーグ優勝の成績を収め、第 74 回全日本大学野球選手権大会(明治神宮野球場・東京ドーム)に四国地区代表として初出場することとなった。
 - ・令和 7 年 6 月 10 日(火)、第 74 回全日本大学野球選手権大会 1 回戦において、九州六大学野球連盟代表の西南学院大学と対戦し、3 対 13(5 回コールド)で敗戦した。当日は、球場に多くの保護者や教職員が応援に駆け付けたほか、学内ではパブリックビューイングを実施し、学生や教職員が声援を送った。
- また、本大会出場に際しては、多くの方々より温かいご支援(ご寄付)を賜った。ここに厚く御礼申し上げる。



【地域連携】

21. 令和 7 年度 北条公民館運動会に参加

令和 7 年 5 月 18 日(日)、北条小学校グラウンドにおいて「令和 7 年度 北条公民館運動会」が開催され、学生ボランティアセンターの学生 3 名が大町区の一員として参加した。学生たちは、スプーンレースや二人三脚、綱引き、地区対抗リレーなどの競技に参加し、地域住民との交流を深めた。また、運動会終了後の懇親会では、地域の方々との交流を通じて、地域とのつながりの大切さを学ぶ貴重な機会となった。

今後も学生ボランティアセンターでは、地域行事への参加を通じて、地域との連携を深めていく。



22. 障害者スポーツ大会においてボランティア活動を実施

令和 7 年 5 月 18 日(日)、愛媛県総合運動公園体育館で開催された「第 24 回全国障害者スポーツ大会車いすバスケットボール競技 中国・四国ブロック予選会」において、健康スポーツ学科の学生 10 名および教員 2 名がボランティアスタッフとして参加した。学生たちは、選手誘導や車いすのタイヤ拭き、荷物運搬、コートキーパー等の業務を担当し、大会運営を支援した。また、活動を通してパラスポーツへの理解を深めるとともに、障がいの有無に関わらずスポーツを楽しむことの意義を学ぶ機会となった。

大会関係者や選手からは、学生の主体的な活動姿勢に対して高い評価を受けた。



23. 愛媛県社会福祉法人経営青年会と学生との意見交換会を開催

令和 7 年 6 月 7 日(土)、北条キャンパスにおいて、「愛媛県社会福祉法人経営青年会」と本学学生による意見交換会を開催した。本意見交換会は、愛媛県社会福祉協議会と本学健康社会学部の共催で行われ、当日は、愛媛県内の社会福祉法人に勤務する職員と学生がグループに分かれ、福祉現場での仕事のやりがいや課題、将来のキャリアなどについて意見交換を行った。学生にとっては、現場で働く職員の声を直接聞く貴重な機会となった。

今後も本学では、学生と福祉現場の専門職との交流を通じて、実践的な学びとキャリア形成の支援に取り組んでいく。

24. 第 54 回かざはや楽市に参加

令和 7 年 6 月 8 日(日)、北条地区まちづくり協議会が主催する「第 54 回かざはや楽市」に、学生ボランティアセンターから学生 4 名が参加した。学生たちは、「北条の謎を探れ!」および「フリーマーケット」



ト」の運営に携わり、資料配布や会場案内、抽選会の進行、商品の陳列や販売補助などを担当した。活動を通して地域住民や来場者との交流を深めるとともに、イベント運営に必要な工夫や配慮について学ぶ貴重な機会となった。

25. 「元気な集落づくり応援団知事感謝状」を受賞

令和7年6月17日(火)、愛媛県庁において「元気な集落づくり応援団知事感謝状」贈呈式が行われ、本学学生ボランティアセンターを中心とした学生ボランティア活動が表彰された。本学学生は、久万高原町、内子町、松山市、伊予市における地域活動に参加し、環境整備や祭り運営補助、農産品販売支援、植樹活動等を実施した。活動を通じて、学生は地域住民との交流を深めるとともに、地域社会への理解を深める機会となった。



26. SON 愛媛と健康スポーツ学科学生による合同スポーツイベントを開催

令和7年7月20日(日)、北条キャンパス記念体育館において、スペシャルオリンピックス日本・愛媛(SON 愛媛)と健康スポーツ学科学生による合同スポーツイベントを開催した。当日は、知的障がいのあるアスリートとその家族、「パラスポーツ」履修学生ら約100名が参加した。イベントでは、学生が授業内で考案したアダプテッド・スポーツ4種目を実施し、参加者同士が交流を深めながら競技を楽しんだ。本活動を通じて、学生は障がいへの理解を深めるとともに、スポーツが持つ多様な価値について学ぶ機会となった。



27. 愛媛銀行寄付講座・聖カタリナ大学公開講座「風早の塾」の開催

令和7年8月9日(土)、愛媛銀行寄付講座・聖カタリナ大学公開講座「風早の塾」に愛媛大学大学院教育学研究科教授の信原孝司氏を講師にお招きし、北条キャンパスにおいて、聖カタリナ大学健康社会学部現代人間学科開設記念講座「対話と支援の心理学」を開催した。後学期には、学校法人聖カタリナ学園100周年記念事業として「SDGs:持続可能な未来を目指した100年時代のライフデザイン」をテーマに全8回の講座を開講した。各講座では、様々な分野の専門家よりメインテーマに沿った講演が行われ、持続可能な社会の実現に向けた課題や取組、100年時代を見据えたライフデザインについて多角的な視点から学ぶ機会が提供され、出席した延べ1280名を超える参加者(学生・一般)は、それぞれの専門的知見や実践事例に触れることで理解を深めるとともに、自らの生き方や地域社会との関わりについて考察を深めた。また、講師との質疑応答や参加者同士の意見交換を通じて、多様な価値観を共有しながら、持続可能な未来の創造に向けた意識の醸成を図る機会となった。

平成25年度より開講している愛媛銀行寄付講座は13年目を迎え、地域の方々にとって学生と一緒に学ぶ良い生涯教育の場となっている。



28. 短期大学部保育学科公開講座「リカレントセミナー」を開催

令和7年8月21日(木)、第25回リカレントセミナーを開催した。当日は、保育現場や施設等に勤務する多くの参加者が来学し、本学卒業生の参加も多数見られた。セミナーでは、前半・後半に分けて計4講座を実施した。前半は「認定こども園の未満児担当者のための講座 子どもの発達の見方と関係性について」および「子どもが



ケアする世界』と出会う ～直接的援助について意見交流～」、後半は「レイン・メーカー(雨音装置)作り」および「絵本でつなごう!」をテーマに開催した。

参加者は、本学教員による講義や演習に熱心に取り組み、実践的な学びを深める機会となった。

29. 愛媛マラソンにボランティア参加

令和8年2月1日(日)、第63回愛媛マラソンにおいて、本学看護学科学生24名が救護ボランティアとして参加した。学生たちは、マラソンコース上でランナーの健康状態の観察および必要時の救命対応が行えるよう、これまでに学修した赤十字救急法の知識と技術を復習したうえで活動に臨んだ。開催前には大寒波の影響による参加者の体調が懸念されたものの、大会当日は快晴となり、学生たちはそれぞれの役割を果たしながら、ランナーへ声援を送り大会運営を支えた。



【国際交流・提携】

30. 静修高級中學(台湾 台北市)と教育連携協定を締結

令和7年12月12日(金)、台湾(台北市)の静修高級中學と教育連携協定を締結した。本協定は、両校が共有するカトリック精神に基づく教育理念を基盤として、教育活動における連携を深めることを目的としている。締結式は静修高級中學において執り行われ、本学の坂原明学長と静修高級中學の蔡英華校長が協定書へ署名を行った。本協定により、今後は教職員および学生・生徒の交流をはじめ、幅広い教育分野において協力関係を推進していく。また、本学はこれらの取り組みを通じて、生徒の進路意識や学修意欲の向上を支援していく。今後も、カトリックの理念を共有する両校の特色を活かしながら、連携の充実を図っていく。



31. 看護学科 学生がマレーシアで2週間の海外研修プログラムに参加

看護学科3年生5名が、マレーシアにおいて2週間の海外研修を実施した。本研修は、本学と国際交流協定を締結しているマーシャ大学(マレーシア)の協力のもと実施された。研修では、病院や高齢者施設、産後ケア施設などの視察に加え、マレーシアのヘルスケアシステムや慢性疾患看護等に関する講義を受講した。また、医学・看護シミュレーションセンターなどの教育施設見学を通じて、マレーシアの保健医療制度への理解を深めた。さらに、マーシャ大学の学生との交流も行い、本学学生は英語による愛媛県および本学の紹介を実施した。加えて、マラッカやプトラモスク、バドゥ洞窟などを訪問し、現地の歴史・文化についても学んだ。本研修を通じて、学生たちは異文化理解や語学力を高めるとともに、グローバルな視点から医療・看護を考える力を養うことができた。



32. 台北市との小中学校友好交流推進員に任命(継続)

松山市教育委員会より、本学の台湾人留学生2名が「台北市との小中学校友好交流推進員」に任命され、令和7年5月28日(水)に開催された委嘱式に参加した。本推進員には令和2年度より本学学生が継続して任命されており、今年度も引き続き本学学生がその役割を担うこととなった。



近年、松山空港と台湾・台北を結ぶ定期便の利用が好調であり、松山市と台湾との交流は一層活発化している。本活動を通じて、日台間の相互理解と交流促進に寄与することが期待される。

33. 本学留学生 北条地区社会福祉協議会 研修会で講演

令和 8 年 3 月 19 日(木)、北条コミュニティセンターにおいて、北条地区社会福祉協議会役員を対象とした講演会を開催し、社会福祉学科 3 年 オウ・シュエイジンさん(台湾人留学生)と現代人間学科 村上佳子准教授が講演を行った。オウさんは「台湾と日本の高齢者福祉」をテーマに、台湾における家族中心の介護文化や、日本との福祉観の違いについて、自身の経験を交えながら紹介した。また、村上准教授は「デンマークの高齢者福祉」について、海外研修時の写真を用いながら説明を行った。講演後には参加者との質疑応答も実施され、海外の福祉制度や文化を通して、地域における支え合いについて考える貴重な機会となった。



【高大連携】

34. 愛媛県立北条高等学校による大学訪問を実施

令和 7 年 5 月 9 日(金)、高大連携事業の一環として、愛媛県立北条高等学校 1 年生 64 名および引率教諭 14 名が北条キャンパスを訪問した。これは、昨年度締結された同高校と本学との「高大連携に関する協定」によるもので、当日は体験授業を中心としたプログラムを実施するとともに、施設見学も行い、本学の学びや教育環境について理解を深める機会となった。

35. 新田高等学校内で出張型オープンキャンパス「おでかけキャンパス」を実施

令和 7 年 6 月 26 日(木)、高大連携事業の一環として、新田高等学校内で出張型オープンキャンパス「おでかけキャンパス in 新田高等学校」を実施した。本学からは教職員・在学生および新田高等学校出身の卒業生が参加した。本イベントには 3 年生を中心に延べ 53 名の事前参加申込があった。

36. 第 60 回松山野球拳おどりに参加

令和 7 年 8 月 8 日(金)から 10 日(日)に開催された「第 60 回松山野球拳おどり」において、本学園の『聖カタリナ学園連』が、8 月 9 日(土)の「団体連の部(審査部門)」に出場し、準優勝を受賞した。『聖カタリナ学園連』は、聖カタリナ学園高校および聖カタリナ大学(短大)の学生生徒を中心に構成され、今年度は、卒業生・キッズを含む総勢 95 名が参加し、創立 100 周年の節目にふさわしい一体感のある演舞を披露した。また、観客から多くの声援を受け、また、スクールバス運行委託先である有限会社奥島観光様より協賛をいただくなど、多くのご支援をいただいた。『聖カタリナ学園連』は 2010 年度より参加を重ねており、今年で 13 回目の出場となった。これまでに優勝 1 回、準優勝 4 回を含め、継続して優秀な成績を収めている。



37. 令和 7 年度 募金活動(学生ボランティアセンター×北条高校生徒会)

聖カタリナ大学学生ボランティアセンターと愛媛県立北条高等学校生徒会は、昨年度に引き続き地域貢献活動の一環としてチャリティーフリーマーケットを共同開催した。大学生と高校生が協力して販売を行い、地域の人々との交流を深めながら、支援の輪を広げた。このフリーマーケットは、聖カタリナ大学の大学祭(10 月 26 日)において実施され、売上金 8,185 円は北条地区共同募金会および社会福祉法人松山市社会福祉協議会 松山市まごころ銀行に全額寄付された。



【学生募集・広報活動】

38. 大学説明会を開催

令和7年6月18日(水)、松山市駅キャンパスを会場に「2025年度大学説明会」(高校教員対象)を開催し、26校の参加を得た。当日は、担当の教職員が、各学科の特色や就職状況、入試要領、奨学金等について説明を行ったほか、希望者を対象にキャンパス内の施設設備見学会と個別相談を実施した。また、都合等により本説明会に出席できなかった学校に対しては、個別の高校訪問にて丁寧な対応を行った。

39. オープンキャンパスを開催

令和7年度オープンキャンパスは、北条キャンパスでは①4月19日(土)、②5月17日(土)、③6月21日(土)、④7月26日(土)、⑤8月9日(土)、⑥10月18日(土)、⑦12月23日(火)、⑧3月20日(金)の計8回開催した。松山市駅キャンパスでは①7月6日(日)、②7月19日(土)※ナイト開催、③8月8日(金)、④8月9日(土)、⑤10月26日(日)、⑥12月13日(土)、⑦3月7日(土)の計7回開催した。参加者数は、北条キャンパスは430名(同伴者165名を含む)、松山市駅キャンパスは235名(同伴者79名を含む)となった。

40. おでかけキャンパスを開催

「おでかけキャンパス」は、大学・短大の教員や在学生が、各会場に出向いて説明や相談を行う出張型のオープンキャンパスで、東予地区(イオンモール今治新都市、イオンモール新居浜市)で2回、中予地区(松山市)を対象とした「おでかけキャンパス in 松山銀天街」を3回開催し、合計で27名(同伴者8名を含む)の参加があった。

41. 各種 SNS でのショート動画配信

主要なSNS(YouTube、Instagram、X、TikTok)において、本学の様々な情報をショート動画で積極的に発信している。なお、引き続きYAHOO!トップページへのブランドパネル設置による広告企画を導入した。

42. 前年度から引き続き実施した学生募集・広報活動

- ①オープンキャンパスの参加者に配付する「袋」を脱プラスチックへの取り組みとして紙製品を導入している。
- ②大学案内以外のサブ資料として、各学科および強化指定クラブのパンフレットを作成し、広報活動(PR)を実施している。また、これらに加え、今後は各学科の専門分野における本学独自の「AX教育」の取り組みを紹介する、新たなパンフレットを作成する。
- ③今年度新たに愛媛県看護学生確保・県内定着事業補助金を活用し、松山市駅・まつちか・郊外電車乗り場に看護学科のデジタルサイネージ広告の導入を行った。



【附置機関】

43. 研究所フォーラムの開催・研究紀要の発行

本年度のキリスト教研究所フォーラムは、令和7年10月14日(火)～令和8年2月10日(火)の間、全5回(発表者11名)、また、人間文化研究所フォーラムは、令和7年9月18日(木)～令和8年1月21日(水)の間、全5回(発表者10名)をそれぞれ開催した。また、人間文化研究所紀要(第30号)を令和7年10月に、キリスト教研究所紀要(第28号)を令和7年12月にそれぞれ発行した。

44. 第 111 回全国図書館大会愛媛大会に参加

令和 7 年 10 月 30 日(木)・31 日(金)の 2 日間、第 111 回全国図書館大会愛媛大会が松山市内各所で開催された。大学・短大・高専図書館を対象とする第 2 分科会は愛媛大学を会場とし、「研究支援と図書館」というテーマのもと、基調講演 2 件や事例報告、パネルディスカッションが実施された。講演者の方々とのパネルディスカッションでは野村副学長がファシリテーターを務め、海外の図書館や恐竜学、文献検索方法など貴重なお話を伺えた。

さらに、関連事業として「わが図書館のいち“押し”紹介」をテーマにポスターセッションも開催された。本学図書館からもポスターとアンブレラマーカーを出展し、日頃の取り組みを紹介でき広く大学を知っていただけた。その後、展示された各大学等 14 団体のポスターは県内 4 か所で巡回展示され、本学北条キャンパス本館においても展示した。

45. 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部研究紀要第 38 号を発行

令和 8 年 3 月 27 日(金)、聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部研究紀要第 38 号を本学ホームページ上に公開した。

【その他】

46. 看護学科ホームカミングデーを実施

令和 7 年 7 月 5 日(土)、松山市駅キャンパスにおいて、第 4 回看護学科ホームカミングデーを開催した。当日は、看護学科 1 期生から 5 期生までの卒業生 23 名が参加し、卒業生同士や在学生、教職員との交流を深めた。会場では久しぶりの再会を喜ぶ姿が見られ、懐かしさと新たなつながりを感じられる温かな時間となった。本イベントは卒業生と在学生を繋ぐだけでなく、卒業生の離職防止も目的としている。



■高等学校関連

《聖カタリナ学園高等学校》

【教育】

1. 普通科・看護科二科体制への移行と教育改革

本年度は、本校創立 100 周年の節目の年であり、学科改組初年度として新たな教育体制のもと教育活動を開始した。

本校では、中学生の多様な学習ニーズや進路希望への対応を目的として、「学科等改革検討委員会」を設置し、学科・コース・系列の在り方について継続的に検討を重ねてきた。その結果、令和 7 年度より総合学科を普通科へ統合し、学科・コースの再編を実施した。これにより、普通科および看護科の 2 科体制へ移行し、令和 6 年 9 月 12 日付で愛媛県の認可を受けて改組を実現した。

改組初年度となる令和 7 年度は、新たな教育課程の円滑な運用に努めるとともに、生徒一人ひとりの進路実現に向けた指導体制の充実を図った。普通科においては、多様な進路選択に対応できる教育内容の整備を進め、看護科との連携も含めた特色ある教育活動を展開している。また、キャリア教育の充実や進路指導体制の強化を推進し、地域社会や関係機関との連携を深めながら、生徒の主体的な学びを支援する教育環境の整備に取り組んでいる。

今後は、新たな学科体制の定着と教育内容の充実を図り、生徒の多様なニーズに応えるとともに、地域社会を支える人材の育成に貢献する学校づくりを推進していく。

【令和 7 年 4 月からの学科構成】

聖カタリナ学園高等学校

全日制課程	定員 1,900 名
普通科	(1,500 名)
看護科	(240 名)
看護専攻科	(160 名)

2. 看護科宣誓式

令和 7 年 6 月 5 日(木)、看護科 2 年生の宣誓式を実施した。翌週から始まる臨地実習を前に、生徒たちは来賓および保護者を前に「誓いの言葉」を述べ、これまで学んできた知識や技術を礎に、看護師を目指す決意を新たにした。厳かな雰囲気の中、生徒一人ひとりが看護職を志す責任と使命感を胸に、実習への意欲と決意を表明した。



3. 「令和 7 年度高等学校 DX 加速化推進事業(DX ハイスクール)」に採択

本校は、令和7年度高等学校 DX 加速化推進事業(DX ハイスクール)に採択された。本事業は、情報・数学等の教育を重視するカリキュラムや ICT を活用した文理横断的・探究的な学びの強化などに必要な環境整備の経費を文部科学省が主導して支援する新たな取り組みとして令和 6 年度から開始され、採択校からデジタル等成長分野の学部・学科への進学者が増加することが期待されている。

4. 令和 7 年度看護師国家試験の結果

令和 8 年 2 月 15 日(日)に実施された令和 7 年度(第 115 回)看護師国家試験において、専攻科 2 年生 50 名が受験し、47 名が合格した。合格率は 94%であった。生徒一人ひとりが日頃の学習成果を発揮し、高い合格実績を収めることができた。今後も看護師養成校として、専門的知識・技術の習得と国家試験対策の充実を図り、地域医療を支える質の高い看護人材の育成に努めていく。

5. 姉妹校セント・メアリーズ校との国際交流

令和7年9月19日(金)から26日(金)、ニュージーランドの姉妹校であるセント・メアリーズ校より、生徒14名および引率教員3名を受け入れた。滞在期間中、留学生は本校生徒とともに授業や学校行事に参加し、学校生活を共有しながら交流を深めた。本校生徒も積極的に留学生に関わり、異文化理解や語学学習への関心を高める機会となった。約1週間にわたる交流は、双方の生徒にとって国際的な視野を広げる貴重な経験となり、姉妹校との友好関係を一層深める有意義な取組となった。



【学校生活】

6. 令和7年度入学式を挙行

令和7年4月9日(水)、令和7年度入学式を挙行了。
真新しい制服に身を包んだ新入生242名が、新たな一歩を踏み出しました。



7. 体育祭を実施

令和7年9月10日(水)、「令和7年度体育祭」を実施した。本年度から保護者の観覧を再開し、全校生徒が授業や放課後の練習の成果を発揮して、各競技で熱戦を繰り広げた。当日は天候不良のためクラスパフォーマンスを中止したが、生徒の努力の成果を発表する機会を確保するため、9月12日(金)に改めて実施した。特に3年生にとっては高校生活最後の体育祭となり、仲間と協力して完成させたパフォーマンスを披露することができた。また、運動部生徒が会場設営や競技運営、後片付けなどに積極的に協力し、体育祭の円滑な運営を支えた。
本行事を通して、生徒の協調性や主体性を育むとともに、学年を超えた交流を深める機会となった。



8. 火災地震避難訓練を実施

令和7年5月2日(金)、全校一斉の火災地震避難訓練を実施した。訓練では、地震発生時の身の守り方や避難経路の確保、火災発生時における煙への対応など、防災に関する基本的な知識と行動について学んだ。本訓練を通して、防災意識の向上と安全な避難行動の習得を図ることができた。このような訓練は、年間において複数回実施しており、様々な災害を想定した訓練を予定している。



9. 芸術鑑賞会の実施

令和7年6月18日(水)、本校白ゆり館において芸術鑑賞会を開催し、「東京演劇集団 風」による『ヘレン・ケラー ひびき合うものたち』を鑑賞した。

本公演を通して、生徒たちは困難に立ち向かいながら自らの可能性を信じて生きる姿に触れ、他者理解や共生社会の在り方について学ぶ機会となった。

終演後には舞台裏見学会が行われ、舞台装置や演出の工夫について理解を深めた。また、女子バスケットボール部の寮生および野球部員が舞台セットの搬入・搬出を補助し、奉仕活動にも取り組んだ。

本鑑賞会は、生徒の芸術文化への理解と豊かな人間性を育む有意義な教育活動となった。



10. 就職希望者対象進路ガイダンスを実施

就職を希望する生徒を対象に、「卒業生を囲む懇親会」および「職業理解ガイダンス」を実施した。

「卒業生を囲む懇親会」では、本校卒業生を招き、高校生活と社会人生活の違いや就職後の経験について

話を聞くことで、生徒の進路意識の向上を図った。

また、「職業理解ガイダンス」では、企業担当者から業務内容や求める人材像について説明を受け、生徒は様々な職業への理解を深めるとともに、将来の進路選択に向けて視野を広げる機会となった。

これらの取組を通して、生徒の職業観・勤労観の育成と主体的な進路選択への意識向上を図ることができた。



11. 学園祭を実施

令和7年11月7日(金)、学園祭を開催した。当日は晴天に恵まれ、多くの来場者を迎える中、生徒によるステージ発表やクラス・部活動による出店、展示などが行われた。また、16台のキッチンカーが出店し、生徒や来場者で賑わいを見せた。校内は活気にあふれ、生徒たちは協力しながら企画運営に取り組み、学園祭を盛り上げた。本行事を通して、生徒の自主性や協調性を育むとともに、学校と地域との交流を深める機会となった。



12. 「まちづくりヒーローコンテスト」においてビジョン賞を受賞

令和7年8月10日(日)、愛媛大学で開催された「まちづくりヒーロープレゼンコンテスト(主催 ゆるサガ愛媛)」に、本校総合学科3年生の5グループが参加した。本コンテストは、地域社会で活躍する人々への取材を通して地域課題や社会との関わりについて考察し、その成果を発表するものである。生徒たちは探究活動の一環として、地域の企業や商店街等と連携しながら課題解決に向けた取組を進め、その成果を発表した。その結果、「まつやま花園日曜日」チームによる『花園町に笑顔の花を』の発表が高く評価され、団体賞各部門賞であるビジョン賞(あいテレビ賞)を受賞した。本取組を通して、生徒は地域社会への理解を深めるとともに、主体的に課題解決に取り組む力や発信力を養うことができた。



13. 公安職ガイダンスを実施

令和8年2月9日(月)、公安職ガイダンスを実施した。当日は、警察官、消防官、自衛官を招き、それぞれの業務内容や仕事のやりがい、求められる資質等について講話をいただいた。生徒は、公安職に対する理解を深めるとともに、職業選択の幅を広げる機会となった。

本ガイダンスを通して、生徒の職業観や勤労観の育成を図り、将来の進路選択について考える有意義な機会となった。



【地域連携・地域貢献】

14. 松山市「プチ美化運動」に参加

令和7年5月20日(火)、地域貢献活動の一環として、松山市が推進する「プチ美化運動」に参加した。

本活動は、トングを使用して歩道等のごみを拾う環境美化ボランティア活動であり、本校において毎月1回設定している「カリタスの日」の取組として実施した。放課後に参加希望者を募ったところ、初回となる今回は10名の生徒が参加した。当日は、国道56号線沿いの歩道を中心に、2〜3名のグループに分かれて清掃活動を行った。暑さの厳しい中での活動となったが、生徒たちは積極的に取り組み、歩道だけでなく花壇内の小さなごみまで丁寧に回収した。活動を通して、地域環境の美化に貢献するとともに、生徒の奉仕の精神や公共心を育む機会となった。今後も継続的な活動を通じて、地域社会とのつながりを深めていきたい。



※「カリタス」は、ラテン語で「愛」を意味する言葉であり、「カリタスの日」は、カトリック校である本校の伝統行事として続けられている。

15. 全校ボランティア活動を実施

令和7年6月18日(水)、全生徒による奉仕活動が実施された。松山市駅周辺では、看護科1年生がミャンマー大地震復興支援のための募金活動を実施し、多くの方々の協力を得て義援金を募った。総合学科3年生の一部クラスでは、国道56号線沿いの清掃活動や、平和体験学習で広島平和記念公園へ奉納する千羽鶴の作成に取り組んだ。この他にも、生徒たちは様々な奉仕活動を展開した。本活動を通して、生徒は奉仕の精神や社会貢献への意識を高めるとともに、地域社会や他者とのつながりについて理解を深める機会となった。



16. キッズ ファースト アクション～みらいへのキャッチボールプロジェクト～に参加

令和7年11月14日(金)、本校硬式野球部およびソフトボール部は、ロザリオ幼稚園および聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園の年長児を対象に、野球の楽しさを伝え普及につなげることを目的とした野球教室を実施した。

本活動は、一般社団法人日本野球機構(NPB)および公益財団法人日本高等学校野球連盟(日本高野連)が推進する「キッズ ファースト アクション～みらいへのキャッチボールプロジェクト～」の趣旨に基づき実施されたものである。

当日は、高校生が準備運動やキャッチボール、バッティングなどの基本動作を園児に分かりやすく指導したほか、ベースランニングリレーなどを通して交流を深めた。園児たちは楽しみながら野球に親しみ、高校生にとってもスポーツの魅力を伝える貴重な機会となった。

本活動を通して、地域との交流を深めるとともに、野球の普及振興および生徒の社会貢献意識の向上を図ることができた。



【在校生の活躍】

17. 運動部

○女子ソフトボール部

- ・「令和7年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、優勝の成績を収め、四国大会・全国総体(インターハイ)の出場権を得た。
- ・「第74回四国高等学校ソフトボール選手権大会(四国大会)」において、第3位の成績を収めた。
- ・「令和7年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」において、2回戦敗退となった。



○弓道部

- ・「令和7年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、団体戦で優勝(2年連続9回目)し、四国大会・全国総体(インターハイ)の出場権を得た。また、女子個人において、村上莉子選手が準優勝の成績を収め、四国大会・全国総体(インターハイ)の出場権を得た。
- ・「第66回四国高等学校弓道選手権大会(四国大会)」において、団体戦でベスト8の成績を収めた。
- ・「令和7年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」において、団体戦でベスト16の成績を収めた。



○バスケットボール部

- ・「令和 7 年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、優勝(23 年連続 30 回目)し、四国大会・全国総体(インターハイ)の出場権を得た。
- ・「第 78 回四国高等学校バスケットボール選手権大会(四国大会)」において、優勝の成績を収めた。
- ・「令和 7 年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」において、2 回戦(初戦)敗退となった。
- ・「令和 7 年度第 78 回全国高等学校選手権(ウインターカップ)愛媛県予選」において、優勝(8 年連続 30 回目)し、全国高等学校選手権(ウインターカップ)の出場権を得た。
- ・「令和 7 年度第 78 回全国高等学校選手権(ウインターカップ)」において、1 回戦敗退となった。
- ・「令和 7 年度愛媛県高等学校バスケットボール新人大会」において、優勝(25 年連続 31 回目)した。
- ・「令和 7 年度第 33 回四国高等学校バスケットボール新人選手権大会」において、優勝した。



○ソフトテニス部(女子)

- ・「令和 7 年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、団体戦で第 3 位の成績を収め、四国大会の出場権を得た。また、女子個人において、山本佑奈選手・木村朱里選手ペアがベスト 8 の成績を収め、四国大会・全国総体(インターハイ)の出場権を得た。
- ・「第 73 回四国高等学校ソフトテニス選手権大会(四国大会)」において、団体戦および女子個人に出場した。
- ・「令和 7 年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」において、女子個人に山本佑奈選手・木村朱里選手ペアが出場した。

○陸上競技部

[女子]

- ・「令和 7 年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、女子総合で第 3 位、女子トラック総合で優勝の成績を収めた。また、井門萌選手が、1500mおよび 3000mでそれぞれ優勝、4×100mリレーで優勝(県高校新記録)、赤松仁香選手が 7 種競技で優勝したほか、多数の選手が入賞し、第 6 位までの成績を収めた選手 13 名が四国大会の出場権を得た。
- ・「第 78 回四国高等学校陸上競技対校選手権大会(四国大会)」において、女子総合で第 4 位、女子トラック総合で第 3 位の成績を収めた。また、赤松仁香選手が 7 種競技で優勝、井門萌選手が 1500mで第 2 位、4×400mリレーで第 2 位の成績を収め、13 名の選手が全国総体(インターハイ)の出場権を得た。
- ・「令和 7 年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」において、8 名の選手が出場した。
- ・「第 66 回唐津 10 マイルロードレース大会」において、高校女子 5kmで、井門萌選手が優勝した。
- ・「第 44 回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会」において、本校から井門萌選手(1 区)が愛媛県代表として出場し、第 21 位の成績を収めた。



○新体操部

- ・「令和 7 年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、個人総合で、島崎もも選手が 3 年連続で優勝の成績を収め、全国総体(インターハイ)の出場権を得た。
- ・「令和 7 年度 第 73 回四国高等学校体操競技選手権大会(四国大会)」において、個人総合で、島崎もも選手が 3 年連続で優勝の成績を収めた。
- ・「令和 7 年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」において、個人総合で、島崎もも選手が優勝の成績を収めた。島崎選手は、昨年・一昨年と同大会で 2 年連続準優勝を収めており、最終学年となる本年、悲願の優勝を達成した。



○体操競技部

- ・「令和 7 年度愛媛県高等学校総合体育大会」において、女子団体が優勝の成績を収め、四国大会・全国総体(インターハイ)の出場権を得た。また、女子個人で、清家梨夢選手が 2 位、玉井陽向選手が 3 位、末浪楓香選手が 5 位、神野朱音選手が 6 位の成績を収めた。
- ・「令和 7 年度 第 73 回四国高等学校体操競技選手権大会(四国大会)」において、女子団体が 3 位の成績を収めた。また、女子個人で、清家梨夢選手が 5 位の成績を収めた。
- ・「令和 7 年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」において、女子団体が 20 位の成績を収めた。



○硬式野球部

- ・第 107 回全国高等学校野球選手権大会(愛媛大会)において、昨年度優勝校の本校は、主将の竹内心音選手が優勝旗返還を行った。試合は、2 回戦敗退となった。
- ・令和 7 年度秋季四国地区高等学校野球大会愛媛県大会において、ベスト 8 の成績を収めた。
- ・令和 7 年 10 月 23 日(木)、2025 年プロ野球ドラフト会議において、令和 3 年度に本校を卒業した櫻井頼之介選手(投手)が、セ・リーグ中日ドラゴンズから 2 位指名を受けた。一昨年の河内 康介投手(オリックス・バファローズ)、昨年の有馬恵叶選手(投手)に続き、本校 3 人目となる NPB プロ野球選手が誕生した。櫻井頼之介選手の今後の活躍に期待する。



【高大連携】

18. 第 60 回松山野球拳おどりに参加

令和 7 年 8 月 8 日(金)から 10 日(日)に開催された「第 60 回松山野球拳おどり」において、本学園の『聖カタリナ学園連』が、8 月 9 日(土)の「団体連の部(審査部門)」に出場し、準優勝を受賞した。

『聖カタリナ学園連』は、聖カタリナ学園高校および聖カタリナ大学(短大)の学生生徒を中心に構成され、今年度は、卒業生・キッズを含む総勢 95 名が参加し、創立 100 周年の節目にふさわしい一体感のある演舞を披露した。また、観客から多くの声援を受け、また、大学のスクールバス運行委託先である有限会社奥島観光様より協賛をいただくなど、多くのご支援をいただいた。

『聖カタリナ学園連』は 2010 年度より参加を重ねており、今年で 13 回目の出場となった。これまでに優勝 1 回、準優勝 4 回を含め、継続して優秀な成績を収めている。



19. 上智大学と高大連携に関する協定を締結

本校は令和 7 年 9 月 1 日付で上智大学と高大連携協定を締結し、10 月 15 日に調印式を実施した。

本協定は、カトリック教育の理念を基盤として、教職員・学生・生徒の交流および連携を通じて、相互の教育活動の充実と発展を図ることを目的としている。今後は、本協定に基づく多様な交流や学習機会の創出を通して、生徒の学びの深化と教育内容の充実を図るとともに、より魅力ある学校づくりを推進していく。



【生徒募集・広報活動】

20. 学校・入試説明会を開催

○学校説明会

令和7年5月15日(木)から10月30日(木)の間、各中学校(県内70校)が実施する私立高校合同説明会に、教員を派遣した。

○体験学習会

令和7年7月30日(水)・31日(木)・8月22日(金)・26日(火)の4日間、来年受験を迎える中学生を対象に「夏休み体験学習・見学会」および「部活動体験会」が実施され、4日間で552名の参加を得た。生徒たちは学科別に設けられた授業体験コーナーにそれぞれの興味や希望に応じて参加した。「部活動体験会」では、デモンストレーションや、体験入部を実施した。

21. 普通科特進コース勉強会を実施

令和7年9月20日(土)、受験を控えた中学生を対象に「普通科特進コース勉強会」を実施した。参加した中学生たちは、受験対策として各教科の授業を受講し、問題を解く際のポイントや効果的な解法について学んだ。また、本校教員が一人ひとりの質問や不安に丁寧に対応し、受験生にとって非常に有意義な機会となった。



【教育環境整備】

22. 朝生田体育館に空調設備を新設

創立100周年記念寄付金および私立学校施設整備費補助金(施設環境改善整備事業)を活用し、朝生田体育館に空調設備を設置した。これにより、既に空調設備を備えている白ゆり館体育館と合わせて、両体育館において快適で安全な教育環境の整備が実現した。体育の授業や部活動における熱中症対策の充実と、生徒の学習・活動環境の向上につながるものとなった。本設備の整備にあたり、ご支援いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



《京都聖カタリナ高等学校》

【教育】

1. 広域通信制課程単位制普通科設置準備

多様化する生徒の学習ニーズに対応するとともに、カトリック学校として「建学の精神」を基盤とした教育を広く提供するため、広域通信制課程単位制普通科の設置準備を進めている。

令和9年4月1日の開設を目指し、教育課程の編成や運営体制の整備、関係機関との協議を進めている。生徒一人ひとりの状況や歩みに寄り添い、多様な学びを支える教育環境の構築に取り組んでいる。

2. 看護科戴帽式

令和7年4月19日(土)、第44回看護科戴帽式を挙行了。看護科3年生は、6月から始まる看護臨地実習を前に、看護職を目指す者としての決意を新たにした。戴帽式は、看護の専門分野へ進む節目として看護帽を授与する儀式であり、近代看護の祖であるナイチンゲールに由来する伝統的な行事である。生徒たちは愛の灯を掲げ、看護者としての誓いを力強く表明した。

式典には中学生も見学を訪れ、「感動した」「立ち姿がとても美しかった」などの感想が寄せられ、生徒たちの真摯な姿勢が高く評価された。

式典後には、3年生を代表して松本さくらさんがお礼の言葉を述べ、日頃から支えてくれる家族への感謝の気持ちを伝えた。また、看護科長からは、これから直面するさまざまな困難を仲間とともに乗り越えてほしいとの激励の言葉が贈られた。

本式典を通して、生徒たちは看護職としての自覚と責任を深め、今後の実習に向けて意欲を高める機会となった。



3. 新しい探究授業が始動

本取組は、本校の教育改革を推進する第一歩として位置付け、各分野の体験的な授業を半年間にわたり週替わりで実施するものである。生徒が多様な学びに触れ、主体的な課題発見と協働的な探究活動につなげることを目的としている。

第1回は京都光華女子大学短期大学部との連携により、「ジブリと宮崎駿」をテーマとした講義を実施した。第2回は株式会社上西工業の協力のもと、「左官体験」や「泥だんごづくり」を行い、生徒たちはものづくりの楽しさや職人技の奥深さを体験した。

今後も産官学との連携を通して、多様な学びの機会を提供し、生徒の探究心や主体性を育む教育活動を推進していく。



4. 「子ども保育系」幼稚園体験実習

令和7年7月15日(火)、本校隣接の聖家族幼稚園において、「子ども保育系コース」の体験実習を実施した。生徒は2組に分かれ、プール実習および絵本の読み聞かせ体験に参加した。生徒たちは、園児と触れ合いながらサポートを行い、活動を通して交流を深めるなど、有意義な時間を過ごすことができた。実践的な学びを通して、保育への理解を深める機会となった。



5. 令和7年度看護師国家試験の結果

令和8年2月15日(日)に実施された令和7年度(第115回)看護師国家試験において、専攻科2年生33名が受験し、26名が合格した。合格率は78.8%であった。今後も看護師養成校として、専門的知識・技術の習得と国家試験対策の充実を図り、地域医療を支える質の高い看護人材の育成に努めていく。

【学校生活】

6. 令和7年度入学式を挙行

令和7年4月8日(火)、本校聖カタリナホールにおいて令和7年度入学式を挙行した。

新入生は新たな学校生活への第一歩を踏み出し、本校の一員として学びをスタートさせた。式では、新入生の入学を祝福するとともに、高校生活への期待と決意を新たにすることができた。



7. フレッシュセミナーを実施

令和7年4月15日(火)、新入生を対象とした恒例イベントであるフレッシュセミナーを実施した。セミナーは、生徒同士や教員との交流を深めるとともに、カトリック学校で学ぶ意義について理解を深めることを目的として実施している。

午前中はグループワークを通して互いの理解を深め、暮林響神父による講話では井深八重の生涯や他者との出会いの大切さについて学んだ。午後には初めてのミサに参加し、「善きサマリア人のたとえ」を通して、神への愛と隣人愛について理解を深めた。

本セミナーを通して、生徒たちは本校の建学の精神に触れ、高校生活への意識を高めることができた。



8. 開校記念ミサを実施

令和7年4月28日(月)、開校記念ミサを実施した。ミサは彦根教会の小立花忠神父の司式により執り行われた。講話では、12年前にローマでフランシスコ教皇と面会した際のエピソードが紹介された。また、本校の守護聖人であるカタリナにちなみ、校訓「誠実・高潔・奉仕」について話があった。これらは神に対して誠実に生き、自らを律し、無償の奉仕を实践することの大切さを示すものであると語られた。

生徒たちは建学の精神への理解を深め、自らの生き方について考える機会となった。



9. KBS 京都ラジオ「おしゃべりランチタイム！」に出演

令和7年6月18日(水)、KBS 京都ラジオ「となりの森谷さん」内の「おしゃべりランチタイム」に、本校生徒会長と副会長が出演し、本校の特色や学校生活について紹介した。

生徒たちは緊張しながらも堂々と放送に臨み、本校の魅力を広く発信する機会となった。



10. 学園祭を開催

令和7年9月12日(金)・13日(土)、学園祭が開催された。1日目は、南丹市園部文化会館「アスエルそのべ」において、各クラスやダンス同好会、軽音楽同好会によるステージ発表を行った。2日目は、校内でオープンキャンパスと併せて、クラス展示や模擬店を実施した。多くの来場者を迎え、学園祭実行委員会を中心に生徒たちが協力して準備・運営を行い、充実した学校行事となった。



11. 慰霊祭ミサ・合唱祭を実施

令和7年11月4日(火)、慰霊祭ミサを執り行った。地域の信者やシスターの参列のもと、故人への祈りを捧げるとともに、事前学習として映画鑑賞を行い、命の尊さや死生観について考える機会とした。午後には合唱祭を開催し、生徒による合唱発表に加え、地域合唱サークル「河鹿」によるミニコンサートを実施した。祈りと音楽を通して、生命の尊厳や他者とのつながりについて理解を深める機会となった。



12. クリスマスミサ・カトリック講話の実施

令和7年12月17日(水)、レデンプトール修道会 頭島 光神父を迎え、クリスマスミサを執り行った。

ミサ後の講話では、「一日一日を大切に生きること」や「想像し、思い描くことの大切さ」について話があり、その先には希望の光が見えてくるとのメッセージが伝えられた。生徒たちはクリスマスの意義への理解を深めるとともに、希望を持って日々を歩むことの大切さについて考える機会となった。



13. 進路指導・キャリア支援の充実

生徒一人ひとりに合った進路決定を援助するため、以下のような対応を行った。

○新入生を対象に進路ガイダンスを実施

令和7年4月9日(水)、進路に対しての意識づけのために、新入生を対象とした進路ガイダンスを実施した。

○普通科2・3年生を対象に外部進学ガイダンスを実施

令和7年4月23日(水)、普通科2,3年生を対象に外部の進学ガイダンスに参加。

他の高校生の様子も知ることができ、進路を考える上で、良い刺激となった。

○保護者向けのオンラインによる進路セミナーを実施

令和7年5月9日(金)、希望される保護者の方向けに、初の試みではあったが、オンラインによる進路セミナーを実施した。



○習熟度別授業や補習を実施

生徒一人ひとりの学力レベル等に応じた習熟度別授業(普通科1年次より、国語・数学・英語)や補習(普通科・6月より7限)を実施し、学力レベル等に応じて、細やかな対応に努めた。

○進路に関する個人面談等を実施

・進路選択において、ミスマッチが発生しないように、進路指導部の教員中心に個人面談を実施した。

・また、進路に悩む生徒・保護者を対象に、違った目線からアプローチをするため、スクールカウンセラーによる進路カウンセリングを実施した。(適宜実施)

○キャンパスツアーを実施

令和7年10月17日(金)、キャンパス見学ツアーを高校1年生、2年生に行った。1年生および2年生は、京都デザイン&テクノロジー専門学校、京都光華大学、京都建築大学校を訪問し、模擬授業を受講するなど、大学や専門学校の雰囲気を経験し、進学への意識を持つこととなった。

14. 看護科・看護専攻科就職説明会および実習指導者連絡会を実施

令和7年7月15日(火)、看護科・看護専攻科就職説明会および実習指導者連絡会を実施した。

就職説明会には25施設62名が参加し、生徒は個別相談形式で各施設の説明を受け、進路選択への理解を深めた。また、本校卒業生7名も参加し、在校生との交流が行われた。

午後には実習指導者連絡会を開催し、実習施設との情報共有や意見交換を行い、連携強化を図った。



15. 令和 7 年度卒業式を挙行

令和 8 年 2 月 28 日(土)、本校カタリナホールにおいて、第 75 回高等学校卒業式ならびに第 20 回看護専攻科卒業式を挙行した。式には神父様をはじめ、行政機関、教育関係者、医療関係者、地域の来賓の方々が出席し、卒業生の門出を祝福した。

卒業生たちは、これまでの学びや学校生活を振り返りながら、感謝と希望を胸に新たな一歩を踏み出した。高等学校第 75 期生は、本校の伝統を受け継ぎながら成長を遂げ、それぞれの進路へと進んだ。また、看護専攻科第 20 期生は、5 年間の学びを通して培った専門的知識・技術と豊かな人間性を礎に、医療現場をはじめとする各分野へと巣立った。本校で培った「誠実・高潔・奉仕」の精神を胸に、卒業生一人ひとりが社会の中で活躍し、地域や社会に貢献することを期待している。



【地域連携・地域貢献】

16. 地域美化活動(園部駅前花壇植え替え)

令和 7 年 7 月 9 日(水)、地域美化と地域交流を目的として、JR 嵯峨野線園部駅前における花壇の植え替えボランティア活動に参加した。活動には、本校インターアクトクラブおよび有志生徒、京都府立農芸高等学校の生徒、園部ロータリークラブ会員が参加した。植え替えに使用した花は京都府立農芸高等学校の生徒が育てたもので、駅前を色鮮やかに彩った。本活動を通して、生徒たちは地域貢献への意識を高めるとともに、地域の方々や他校生徒との交流を深める機会となった。



17. クリスマス奉仕活動

クリスマス奉仕活動として、地域社会への貢献と奉仕の精神を育むことを目的に、清掃活動および共同募金活動を実施した。清掃活動では、日頃から通学で利用している園部駅的环境美化に取り組むとともに、丹波カトリック教会園部聖堂の清掃を行い、地域の大切な公共施設や信仰の場を整備した。また、南丹市・亀岡市内のスーパーマツモト、京都駅、二条駅前、河原町三条交差点において共同募金活動を実施した。生徒たちは地域の方々に協力を呼びかけ、多くの支援をいただくことができた。



本活動を通して、生徒たちはクリスマスの意義である愛と奉仕の精神を実践するとともに、地域社会とのつながりや支え合いの大切さを学ぶ機会となった。

18. 全日本自転車競技選手権大会ジュニアロードレースにおけるボランティア活動

令和 7 年 6 月 29 日(日)、京都府南丹市美山町で開催された「2025 全日本自転車競技選手権大会ジュニアロードレース」において、看護専攻科 4 年生 1 名、看護科 3 年生 3 名が熱中症啓発活動および救護ボランティア活動に参加した。当日は気温が 35 度まで上昇する厳しい暑さとなり、競技中の負傷者に加え、熱中症による対応も多く発生した。生徒たちは救護活動の補助を行い、実践的な学びを得るとともに、大会運営の支援に貢献した。



本活動を通して、生徒たちは救護に関する知識や技術への理解を深め、地域社会に貢献する意識を高める機会となった。

19. Tリーグ開幕戦運営ボランティアへの参加

令和7年8月1日(金)、日本における卓球プロリーグであるTリーグ「京都カグヤライズ」対「木下アビエル神奈川」の開幕戦において、本校生徒4名が運営ボランティアとして参加した。

生徒たちは試合運営を支えるボールパーソンを担当し、プロ選手のプレーを間近で見ながら責任ある役割を果たした。

本活動を通して、生徒たちはスポーツイベント運営への理解を深めるとともに、貴重な社会経験を得る機会となった。



20. 京都サンガ F.C.ホームゲームにて熱中症防止啓発活動

令和7年8月16日(土)、昨年に続き、Jリーグプロサッカーチーム「京都サンガ F.C.」のホームゲームにおいて、熱中症啓発ボランティア活動を実施した。本校は、京都サンガ F.C.のサポートカンパニーであり、本活動は4年目の取組となり、生徒たちは来場者に熱中症予防を呼びかけた。天候の急変にも対応しながら活動を継続し、地域の健康啓発に貢献した。

活動を通して、生徒たちは社会貢献への意識を高めるとともに、実践的な学びを深める機会となった。



【生徒募集・広報活動】

21. オープンキャンパス・生徒募集イベントを開催

令和7年5月10日(土)、イオンモール京都にて、本校紹介(体験型)イベントを実施し、看護科・普通科の知名度アップに努めた。当日は、授業体験ツアー、各科の授業体験やクラブ体験、在校生との交流など工夫を凝らした催しで中学生を迎えた。本年は、全4回のオープンキャンパスを開催した。

制作委託業者との連携により、学校紹介ビデオを作成し、私学フェア、オープンキャンパスおよび中学校対象説明会にて紹介した。また、学校の魅力・特徴をタイムリーに広報告知することを目指して、Newspaper 夏号を作成した。



22. 「わくわく体験」および「進学相談会」を実施

令和7年5月10日(土)、イオンモール KYOTO において「わくわく体験」および「進学相談会」を開催した。本校の教育内容や特色を広く知っていただくことを目的に、看護科・普通科の授業体験ブースと進学相談ブースを設置した。看護科ブースでは専攻科4年生が血圧測定や新生児人形の抱っこ体験を担当し、普通科どうぶつコースのブースでは関西盲導犬協会の協力のもと、モデル犬「マギー」との交流を実施した。

当日は多くの来場者を迎え、本校の魅力を発信する機会となった。



23. 私学フェア KYOTO に参加

令和7年6月7日(土)・8日(日)、みやこめっせ(京都市勧業館)において開催された「私学フェアKYOTO」(京都府私立中学高等学校連合会主催)に参加した。本イベントは、京都府内の私立中学・高等学校を紹介する恒例イベントであり、府内私立中学・高等学校40校のうち35校が参加した。当日は、本校ブースには70組の相談者(中学生とその保護者)が訪れた。また、生徒発表ステージでは、本校生徒が動画に合わせた学校説明を行った。

24. 京都私立中学・高校展に参加

令和 7 年 8 月 30 日(土)・8 月 31 日(日)の 2 日間、みやこめっせ(京都市勧業館)において、「第 39 回京都私立中学・高校展」(京都府私立中学高等学校連合会および京都新聞主催)が開催された。本イベントは、小学生・中学生および保護者対象の入試・入学相談会であり、本年度で第 39 回となる。当日は、個別相談コーナーを設け、本校ブースには 2 日間で 34 組の相談者(中学生とその保護者)が訪れ入試情報の提供を行った。

25. 中学校を個別訪問

本校教員が近隣中学校を個別訪問し、本年度の入試結果や入学生の現状、卒業生の進路実績等を報告したほか、オープンキャンパスの案内・参加御礼、中学校合同入試説明会の案内を行うなど、中学校との関係づくりに努めた。

26. 中学生・保護者対象講演会を実施

本校をより知ってもらいたい。という生徒募集目的もあり、亀岡市・京丹波市・南丹市内の中学 6 校で、中学生とその保護者対象にした、「入試対策:面接試験の必勝法!」「キャリア教育:働くとはどういうこと?」「公立高校と私立高校の違いと特徴」などの演目で校長が講演会を実施した。

27. 看護職就職・就学合同フェアに参加

令和 8 年 3 月 20 日(金)、みやこめっせ(京都市勧業館)において開催された「看護職就職・就学合同フェア」(主催:京都府・公益社団法人 京都府看護協会)に参加した。本イベントは、看護職を目指す学生や社会人に向けて、進学・就職に関する情報を提供することを目的に開催されたものである。本校からは看護科教員と生徒が参加し、ブースにて学校紹介を行った。来場者には教育内容や特色、進路実績などを紹介し、多くの関心を集めた。



《光ヶ丘女子高等学校》

【教育】

1. 教育方針と取組状況

本校は、カトリック精神に基づき、一人ひとりが神から与えられた固有の使命を自覚し、その実現に向けて主体的に生きる力を育むことを教育の根幹としている。特に、ドミニコ会の創立者である聖ドミニコの精神である「真理の擁護」を教育目標に掲げ、愛と正義に立脚した人生観・世界観の育成に努めている。

その実現に向けて、日常の宗教教育をはじめ、国際理解教育、SDGs・ESD 活動、ボランティア活動、探究学習などを推進し、生徒が他者への奉仕や社会課題への関心を深める機会を設けている。また、多様な価値観に触れる学習や体験活動を通して、自ら考え判断し行動できる人材の育成に取り組んでいる。

今年度も地域社会や企業、行政機関、大学等との連携を積極的に進めるとともに、被災地支援活動や国際教育講演会などの実践的な学びを展開し、生徒の豊かな人間性と社会性の育成を図った。

2. 聖母マリア像の撤去および設置

本校創立当初より本館屋上に設置され、生徒や教職員を見守り続けてきた聖母マリア像について、安全上の理由から令和 8 年 2 月 19 日(木)に撤去した。これに伴い、新たな聖母マリア像を校内の築山に設置し、令和 8 年 2 月 13 日(金)にお披露目ならびに祝福式を実施した。式では、聖母マリアへの感謝を捧げるとともに、新たな聖母像が今後も本校の生徒・教職員を見守り導いてくださるよう祈りを捧げた。

本校の建学の精神を象徴する聖母マリア像の継承を通して、カトリック校としての伝統と信仰の心を次世代へ受け継ぐ機会となった。



3. 教員研修を実施

○新任教育研修

令和 7 年 4 月 1 日(火)、辞令交付後、本年度新たに採用された教員を対象に新任教育研修を実施した。また、令和 7 年 4 月 17 日(木)から 23 日(水)の間、新任教員の研究(公開)授業を実施した。研究(公開)授業は、新任教員の授業スキルを高めるために効果があり、毎年実施している。なお、毎週 1 回、校長主催の新任研修を実施している。カトリック学校の使命、光ヶ丘教育を中心に、また種々の校務分掌の責任者が講師となり精神面と具体的な実務面での研修内容としている。

○現職教育

令和 7 年 6 月 12 日(木)、進路指導部主催により、専任教員と常勤講師を対象に、第一学習社から講師を招き、小論文指導講習を行った。本校では、推薦型選抜により大学進学を目指す生徒が多く、小論文指導を重視している。

4. 国際教育講演会を開催

令和 8 年 3 月 16 日(月)、UN Women(国連女性機関)日本事務所長の 焼家直絵 氏を講師に迎え、「UN Women とともに考えるジェンダー平等と多様性 〜ユースが動かす未来〜」をテーマとした国際教育講演会を開催し、全校生徒が参加した。

講演では、世界および日本における女性や少女を取り巻く現状や、ジェンダー平等の実現に向けた国連の取組について学んだ。また、講師自身の国際機関での経験やキャリア形成についての講話を通して、国際社会で活躍するための視点や姿勢について理解を深めた。

質疑応答では多くの生徒が積極的に質問し、ジェンダー平等や多様性について考える機会となった。本講演は、生徒一人ひとりが自身の将来や社会との関わりについて考え、視野を広げる貴重な学びの場となった。なお、司会および質疑応答の運営は ESD クラブの生徒が担当し、講師へ贈

呈した花束は和紙工芸部の生徒が制作した。



【学校生活】

5. 令和7年度入学式を挙

令和7年4月7日(月)、令和7年度入学式を挙

入学式は、放送部、演劇部、エンジェル部、華道部、吹奏楽部をはじめとする多くの在校生が準備・運営に携わり、新入生を温かく迎える体制を整えた。新入生は新たな環境への期待を胸に学校生活をスタートさせた。本校では、生徒一人ひとりが充実した高校生活を送ることができるよう、学習活動や学校行事、部活動等を通して成長を支援していく。



6. 新入生歓迎会を実施

令和7年4月9日(水)、カタリナホールにおいて新入生歓迎会を開催した。生徒会が中心となって企画・運営を担い、新入生を歓迎した。当日は、演劇部、箏曲部、合唱部、ダンス部、吹奏楽部が発表を行い、各部の活動内容や魅力を紹介した。新入生は学校生活への理解を深めるとともに、先輩たちとの交流を通して高校生活への期待を高める機会となった。本行事を通じて、新入生が学校生活への親しみを深め、新たな仲間とのつながりを築ききっかけとなった。



7. 開校記念ミサを実施

令和7年4月28日(月)、開校記念ミサが開催された。ミサは、神父様の司式により執り行われ、生徒たちは、聖歌を声に出して歌い、開校をお祝いした。また、ミサは保護者に公開された。

8. 聖母を讃える集いを実施

令和7年5月30日(金)、「聖母を讃える集い」が実施された。当日は、全校生徒が参加し、神父様の司式により祭儀が執り行われ、全校生徒一同が心を合わせてお祈りを捧げた。また、午後からは、全校生徒により奉仕活動を実施した。

9. 保護者ガイダンスを開催

令和7年4月12日(土)、3年生の保護者を対象に、進路ガイダンスを開催した。進学率の高い本校において、保護者の進路に係る関心度は非常に高く、120名の保護者が参加した。

10. 芸術鑑賞会を実施

令和7年7月10日(木)、芸術鑑賞会を実施した。本年は、刈谷市総合文化センターにて「愛知室内オーケストラ(山下一史指揮)」を招き、全校生徒および保護者70名(希望者)で鑑賞した。また、本校吹奏楽部の生徒がオーケストラと共演し、シベリウス/交響曲「フィンランディア」を合同演奏した。本校では、情操の育成として、毎年このような取り組みを実施している。

11. 文化祭実施

令和7年9月12日(金)・13日(土)、文化祭を実施した。一般公開日である土曜日には、約1,500人が来場し盛況であった。

12. 練成会を実施

令和7年10月15日(水)・16日(木)、愛知県旭高原自然の家において練成会を実施した。練成会は、1年生が参加する学年合宿として毎年行われている。当日は、神父の講話やさまざまなレクリエーションが行われ、2日間にわたり濃密な時間を過ごした。友人との絆が深まると同時に、自己を見つめ直す機会ともなった。



13. 普通科学習合宿を実施

令和 8 年 3 月 20 日(金)～22 日(日)、新 3 年生を対象とした普通科学習合宿を実施した。進路実現に向けた学習意欲の向上を目的として、3 日間にわたり集中的な学習活動に取り組んだ。合宿では、学年主任による講話に加え、この春卒業した卒業生による進路体験談を実施した。大学受験に向けた学習方法や受験期の心構えについて具体的な話を聞き、生徒たちは進路実現への意識を高めた。

また、教員による個別指導も行われ、一人ひとりの学習状況に応じた支援を受けながら学習に励んだ。本合宿を通して、生徒たちは受験生としての自覚を深めるとともに、今後の学習への意欲を高める機会となった。



【地域連携・地域貢献】

14. 令和 6 年能登半島地震におけるボランティア活動

令和 7 年 8 月 4 日(月)～6 日(水)、令和 6 年 1 月の能登半島地震および同年 9 月の大雨災害で被災した地域を支援するため、2 泊 3 日の日程で、エンジェル部・点訳部の有志生徒 21 名がボランティア活動を実施した。

本活動は岡崎城西高等学校インターアクトクラブとの合同企画として実施したもので、昨年に続き 2 回目の取組となる。輪島市町野町において、水田の草刈りやごみ拾いなどの復旧支援活動を行ったほか、仮設住宅を訪問し、住民との交流活動を実施した。

被災地での実践的な支援活動を通して、生徒たちは地域課題や災害復興について理解を深めるとともに、社会貢献への意識を高める機会となった。なお、活動の様子は NHK 金沢放送局のニュースで紹介された。



15. SDGs・ESDへの取り組み

○福祉コースが「SDGs おかざき魅力発信展」に出展

令和 7 年 9 月 20 日(土)・21 日(日)、福祉コースが、イオンモール岡崎で開催された「第 5 回 SDGs おかざき魅力発信展」に出展した。

本取組は、2023 年の「マンホールサミット in おかざき」を契機として継続している岡崎市上下水道局との協働事業の一環であり、昨年に引き続きコラボブースを展開した。当日は、『「真実の口」の真実』および「カプセル釣りゲーム」の 2 つのアトラクションを出展し、上下水道の役割や重要性について楽しみながら学べる機会を提供した。幅広い世代の来場者が参加し、会場は大きな賑わいを見せた。

また、開催初日には岡崎市長の視察・激励を受けたほか、本取組の様子は中日新聞にも掲載され、地域における生徒の活動成果を広く発信する機会となった。



○ESDクラブが「EXPO 2025 大阪・関西万博」でプレゼンテーションを実施

令和 7 年 4 月 24 日(木)、大阪・関西万博の TEAM EXPO Pavilion において、カンコー学生服 SDGs プロジェクトチーム主催の発表会が開催された。本校からは、「学校制服のハギレでつくるエコフラワープロジェクト」に参加した全国 224 校のうち代表校 3 校の一つとして、ESD クラブで「マラウイコーヒープロジェクト」を担当する生徒 4 名がプレゼンテーションを行った。

発表では、本校が昨年度から実施している「SDGs 教養講座 リベラルアーツ・カフェ」におけるエコフラワー制作の取組をはじめ、地域のリサイクル企業やカーテン製造会社との連携、しめ縄づくりなど、多様な協働活動について紹介した。

また、万博会場では、リベラルアーツ・カフェで提供しているコーヒー豆の生産地であるマラウイのブースを訪問した。コーヒー豆の流通に携わる NPO 代表者や大使館関係者との交流を通じて、生徒たちは日頃の学びと実社会とのつながりを実感する貴重な機会を得た。



○加山興業株式会社において「工場見学&SDGs 広報インターンシップ」を実施

参加者は全校から希望者を募り、学年や部活動の枠を超えた 27 名の生徒が参加した。

午前中は加山興業の市田プラントおよび千両プラントを訪問し、太陽光パネルのリサイクル設備や RPF 製造施設、廃熱を活用した発電施設などを見学した。また、「KAYAMA Farm」ではミツバチの養蜂場やビオトープを見学し、環境保全や地域連携の取組について学んだ。

午後は豊川本社において、「SDGs 広報」をテーマとしたワークショップに参加した。リサイクルプラントやファームの魅力を発信する SNS コンテンツの制作や、「KAYAMA はちみつ」を使用した焼き菓子のラベルデザイン制作に取り組んだ。

本取組は、「リベラルアーツ・カフェ」のスピンオフ企画として実施したものであり、企業の環境・社会貢献活動を学ぶとともに、実践的な体験を通して SDGs への理解を深める機会となった。



【在校生の活躍】

16. 運動部

○ダンス部

- 令和 7 年 7 月 31 日(木)、「第 18 回 日本高校ダンス部選手権 夏の公式全国大会 東海大会」のビッククラスに出場し、第 4 位の成績を収め、8 月に開催される全国大準決勝大会の出場権を得た。
- 令和 7 年 8 月 8 日(金)、「第 37 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)」において、「Bastet 一朝日を導く猫の女神ー」の作品で挑んだ本校ダンス部が、奨励賞を受賞した。
- 令和 7 年 8 月 20 日(水)、「第 18 回 日本高校ダンス部選手権 夏の公式全国大会」の準決勝大会に出場し、第 22 位の成績を収めた。
- 令和 7 年 8 月 25 日(月)、「第 17 回 NFCC 全国ハイスクールダンスコンペティション」に出場し、準優勝の成績を収めた。
- 令和 7 年 9 月 27 日(土)、毎年恒例で、本年度で 37 回目となる「ダンス部作品発表会」を刈谷市総合文化センターで開催した。当日は、約 1,600 人の方が来場し盛況であった。



○陸上部

- 令和 7 年 5 月 23 日(金)から開催された「第 79 回愛知県高等学校総合体育大会(陸上競技)」において、児玉彩花選手が 800m および 1500m で第 1 位の成績を収め、東海大会への出場権を得た。
- 令和 7 年 6 月 20 日(金)から開催された「第 72 回東海高等学校総合体育大会(陸上競技)」(東海大会)において、児玉彩花選手が 800m および 1500m で第 1 位の成績を収め、両種目で全国総体(インターハイ)の出場権を得た。
- 令和 7 年 7 月 28 日(月)から開催された「令和 7 年度全国高等学校総合体育大会(陸上競技)」(インターハイ)において、児玉彩花選手が決勝に進出し、800 メートルで第 8 位、1500m で第 12 位の成績を収めた。
- 令和 7 年 9 月 27 日(土)から開催された「第 41 回 U20 日本陸上競技選手権大会」において、児玉彩花選手が 1500m で第 2 位の成績を収めた。

17. 文化部

○吹奏楽部

[支部大会]

- 令和 7 年 8 月 24 日(日)、「2025 年度第 80 回東海吹奏楽コンクール」において金賞および朝日新聞社賞(第 1 位)を受賞し、10 月に開催される全国大会(23 回目)への出場が決定した。
- 令和 7 年 7 月 30 日(水)、「第 68 回中部日本吹奏楽コンクール愛知県大会」において、第 3 位の成績を収めた。
- 令和 7 年 9 月 22 日(月)~26 日(金)、「第 31 回日本管楽合奏コンテスト(予選審査会)」(非公開)において、

予選を通過し、全国大会への出場が決定した。

- ・令和 8 年 1 月 24 日(土)、「2025 年度愛知県アンサンブルコンテスト(県大会)」に 3 チーム(木管八重奏・金管八重奏・打楽器八重奏)が出場し、3 チーム共に金賞を受賞した。木管八重奏・金管八重奏は、東海大会への出場が決定した。

- ・令和 8 年 2 月 15 日(日)、「第 52 回東海アンサンブルコンテスト(東海大会)」に木管八重奏・金管八重奏が出場し、両チーム共に金賞を受賞した。金管八重奏は、全国大会への出場が決定した(4 年ぶり)。

[全国大会]

- ・令和 7 年 10 月 19 日(日)、「第 73 回全日本吹奏楽コンクール」において、銀賞を受賞した。
- ・令和 7 年 10 月 26 日(日)、「第 31 回日本管楽合奏コンクール」において、最優秀賞、第 2 位にあたる最優秀準グランプリ賞および観客投票最多賞を受賞した。
- ・令和 7 年 11 月 8 日(土)、「第 27 回全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜」において、前年度第 1 位校として特別演奏を披露した。
- ・令和 8 年 3 月 21 日(土)、「第 49 回全日本アンサンブルコンテスト」に金管八重奏が出場し、銀賞を受賞した。
- ・令和 8 年 3 月 22 日(日)、「第 38 回全日本高等学校選抜吹奏楽大会」において、準グランプリであるゴールデン賞(第 2 位)を受賞した。
- ・令和 8 年 3 月 25 日(水)、毎年恒例で、本年度で 49 回目となる「定期演奏会」を日本特殊陶業市民会館で開催した。当日は、約 1,950 人の方が来場し盛況であった。
- ・令和 8 年 3 月 28 日(土)、「第 38 回中日個人重奏コンテスト本大会」に 4 名が出場し、オーボエ独奏、コントラバス独奏、ファゴット独奏、フルート四重奏で金賞、バリトンサクソフォン独奏で銀賞を受賞した。



○合唱部

- ・令和 7 年 8 月 3 日(日)、「第 64 回愛知県合唱コンクール(全日本合唱コンクール愛知県大会)高等学校部門 B グループ」において、金賞を受賞し、中部大会への出場が決定した。
- ・令和 7 年 9 月 27 日(土)、「第 78 回中部合唱コンクール」において、金賞を受賞した。
- ・令和 8 年 3 月 28 日(土)、毎年恒例で、本年度で 49 回目となる「定期演奏会」を岡崎市民会館で開催した。当日は、約 700 人の方が来場し盛況であった。



○放送部

- ・令和 7 年 6 月 22 日(日)、「第 72 回NHK杯全国放送コンテスト愛知県大会」において、朗読部門で野田真子さんが最優秀賞(第 1 位)、今久保琉音さんが優秀賞、ラジオドキュメント部門で優秀賞の成績を収め、全国大会への出場が決定した。
- ・令和 7 年 7 月 22 日(火)から 24 日(木)、「第 72 回NHK杯全国放送コンテスト(全国大会)」に出場した。



○華道部

- ・「Ikenobo 花の甲子園 2025」地区大会(リモート枠)において、優勝した。この結果、「Ikenobo 花の甲子園 2025」全国大会への出場が決定した。
- ・令和 7 年 11 月 16 日(日)、京都市で開催された「Ikenobo 花の甲子園 2025」全国大会に初出場した。地区大会を勝ち抜いたチーム「ヒカリリー☆」の 3 名は、これまでの練習の成果を発揮し、創意工夫を凝らした作品制作とプレゼンテーションを行い、敢闘賞を受賞した。全国大会という大舞台での経験を通して、生徒たちは技術力や表現力を高めるとともに、華道への理解を一層深める機会となった。日頃の活動の成果が実を結び、全国の舞台で活躍する機会を得ることとなった。全国大会でのさらなる活躍が期待される。



【生徒募集・広報活動】

18. 学校見学会を実施

令和7年度は全4回の学校見学会を実施し、第1回5月31日(土)385人、第2回8月30日(土)418人・8月31日(日)354人、第3回11月3日(月・祝)200人、第4回11月30日(日)204人の中学生の参加者があった。当日はダンス部、合唱部、吹奏楽部によるウェルカムステージ、体験授業、入試相談、部活動体験などを実施し、第3回は5科の教員による入試解説講座、第4回にはクリスマスページェントのリハーサル見学など、工夫を凝らした催しで中学生を迎えた。



19. 校外説明会 IN 豊田を実施

令和7年7月11日(金)、豊田市民文化会館で校外説明会が実施された。当日は豊田市・刈谷市・安城市の中学生・保護者等合わせて約100名の参加者があり、吹奏楽部の演奏、国際教養科の英語体験授業、進路説明、個別相談などを行った。



20. 中高連絡会を実施

令和7年7月7日(月)、岡崎市および幸田町の中学校教員を招き、中高連絡会を実施した。

当日は授業見学を行い、本校における教育活動の様子を参観いただいた。

また、カタリナホールではダンス部、合唱部、吹奏楽部による発表を行い、生徒たちの日頃の活動成果を紹介した。

その後、中学校教員と本校に在籍する卒業生との懇談の機会を設け、生徒の成長や学校生活の様子について情報共有を行った。中学校と高等学校との連携を深めるとともに、本校の教育活動への理解を深めていただく機会となった。



21. 三河地区私立高校合同説明会を開催

令和7年9月27日(土)から2日間、三河地区の私立高校による合同説明会が、地区内の中学校の進路指導主事を対象に開催された。本校からは、校長および教頭、入試広報担当教員ら6名が出席し、学校説明を行った。

【教育環境整備】

22. 教育環境整備を実施

中・長期経営計画に基づき、年次計画に沿って教育環境の整備を進めている。本年度は、私立学校施設整備費補助金(施設環境改善整備事業)を活用し、ドミニコホール(体育館)の空調設備新設工事を実施した。これにより、本校が保有する体育館2棟すべての空調化が完了し、生徒がより安全かつ快適に学習・学校活動に取り組むことができる環境が整った。

今後も各種補助金制度を有効に活用しながら、教育環境の充実と施設設備の計画的な整備に努めていく。

【その他】

23. 本校卒業生が「東京 2025 世界陸上競技選手権大会」に出場

本校卒業生の山本有真選手(積水化学所属・平成30年度卒)が、東京で開催された「東京 2025 世界陸上競技選手権大会」において、女子5,000mに出場した。

予選ではレース中盤まで集団の先頭を走り、力強いレース運びで展開を牽引した。惜しくも決勝進出はなかったものの、日本代表選手の活躍を支える力強い走りを見せた。

本校卒業生の国際舞台での活躍は在校生にとっても大きな励みとなった。今後のさらなる活躍が期待される。

■幼稚園関連

《聖マリア幼稚園》

○令和7年9月1日(月)、当園のホームページを全面リニューアルした。新しいデザインは「より見やすく、より使いやすく」をテーマとし、園児の日常の様子や行事のお知らせ、入園に関する情報などを円滑に閲覧できるよう改善を行った。また、スマートフォンやタブレットからも快適に利用できるようレスポンス対応を実施した。これにより、利用者の利便性向上を図るとともに、園の情報発信機能の充実を推進した。

○令和7年5月16日(金)、20日(火)、21日(水)、22日(木)の4日間にわたり、学年別の保育参観を実施した。保護者に自主活動や朝の集まりの様子を参観していただき、子どもたちの成長や日頃の園生活の姿を共有する機会となった。当日は、保護者の来園を喜びながらも緊張した様子を見せる子どもや、保護者の姿を見て安心する子ども、いつも以上に意欲的に活動に取り組む子どもなど、それぞれの姿が見られた。参観の終わりには、子どもたちが母の日に向けて心を込めて制作したプレゼントを手渡し、感謝の気持ちを伝える時間を設けた。親子で触れ合う温かなひとときとなり、子どもたちにとっても喜びの多い機会となった。保護者には静かで温かな雰囲気の中で子どもたちの活動を見守っていただき、円滑な実施にご協力いただいた。



○昨年度より開始した1歳児親子教室「ちゅうりっぷ」を本年度も実施した。また、第5期となる2歳児親子教室「エンジェル」には、「ちゅうりっぷ」から進級した親子が参加し、継続的な親子支援および幼稚園教育への円滑な移行を図った。



《聖家族幼稚園》

○令和7年7月10日(木)、南丹市長、教育長、南丹市職員、保護者会役員、口丹地区の理事長および園長による懇談会を開催した。懇談会では、幼児教育・保育を取り巻く現状や地域の課題について意見交換を行った。また、令和6年度の南丹市における出生数が103名であったとの報告を受け、少子化の進行が地域の幼児教育に及ぼす影響について認識を深めるとともに、今後の園運営や地域における幼児教育の在り方について検討する必要性を共有した。

○秋祭りを開催し、園児がさまざまな遊びや体験コーナーを楽しむ機会を設けた。例年、夏祭りとして夏期に実施していたが、本年度は熱中症予防および安全面への配慮から開催時期を秋季に変更した。当日は、南丹市商工会青年部の協力を得て、多彩な出店や催しを実施した。たんぼぼ組の園児は保育者とともに各コーナーを巡り、年少・年中・年長児は友達と相談しながら自由に好きなコーナーを選択して参加した。園児たちは友達との交流を深めながら、それぞれの活動を意欲的に楽しむ姿が見られた。昼食には、おにぎりや唐揚げ、ポテト、ゼリーを提供し、園児たちは楽しい雰囲気の中で食事を味わった。また、各コーナーで受け取った景品を持ち帰ることで、家庭においても当日の体験を振り返る機会となった。



本行事の実施にあたり、南丹市商工会青年部をはじめ関係者の協力を得ることができた。地域とのつながりを感じながら、園児にとって思い出に残る楽しい行事となった。

○年長児を対象に感謝祭を実施した。カトリック丹波教会 園部聖堂を訪れ、これまで健康に幼稚園生活を送ることができたことへの感謝と、今後の成長と歩みが守られるよう祈りを捧げた。神父様からは、日々祈ることの大切さについてのお話をいただき、一人ひとりに祝福とおメダイ



を授与していただいた。その後、園内においてお別れ会を開催した。在園児から歌のプレゼントが贈られたほか、年長児は幼稚園での思い出や将来の夢について発表を行い、それぞれの成長した姿を披露した。また、在園児が制作した記念品を年長児へ贈呈し、感謝の気持ちを伝えた。さらに、保護者からの歌のプレゼントや、幼少期から現在までの成長を振り返る映像上映、保護者から子どもたちへの記念メダルの贈呈が行われ、子どもたちの成長を共に喜び合う機会となった。感謝祭およびお別れ会を通して、卒園を迎える年長児の成長を祝福するとともに、在園児や保護者、教職員が心をつなげて感謝と別れの時を分かち合うことができた。

なお、園部聖堂は、老朽化等により、令和8年4月5日(土・主の復活の主日)をもって閉鎖された。

《聖カタリナ幼稚園》

○令和7年11月7日(金)、年中児を対象に七五三のお祝いを実施した。隣接する岡崎修道院の聖堂において、これまで健やかに成長することができたことへの感謝を神様にお捧げするとともに、今後も心身ともに健やかに成長できるよう祈りの時間を持った。子どもたちは厳かな雰囲気の中で祈りに参加し、命や成長への感謝の気持ちを深める機会となった。また、日本の伝統行事に触れることを通して、文化や習慣への理解を深める機会ともなった。



○令和8年度入園予定児を対象とした導入保育を実施した。保護者には園の教育方針や生活の流れについて説明を行い、子どもたちには保育室での活動や遊びを体験してもらった。また、在園児との交流や集団活動を通して、幼稚園生活への親しみや期待感を育む機会となった。入園前に園の環境や教職員に慣れることで、不安の軽減を図るとともに、保護者にとっても安心して入園準備を進める機会となった。

○令和7年11月1日(土)、地域や卒園生とのつながりを深めることを目的として、カタリナ祭および同窓生の集いを開催した。多数の卒園生や保護者が来園し、園での思い出を共有するとともに、世代を超えた交流の場となった。遠方から参加する卒園生の姿も見られ、園が長年にわたり地域に根ざした教育を実践してきたことを再確認する機会となった。卒園後も継続するつながり・関わりと学園への親しみを育む行事として大きな意義を持った。



○令和8年1月9日(金)、保育・児童向け表現活動で知られる鈴木翼氏を招いた園内コンサートを実施した。当日は、手遊びや絵本の読み聞かせ、パネルシアターなど多彩な表現活動が行われ、子どもたちは積極的に参加し、笑顔あふれる時間を過ごした。本事業を通じて、豊かな感性や表現力を育むとともに、普段とは異なる学びの機会を提供することで、子どもたちの好奇心や興味・関心を高める機会となった。

《ロザリオ幼稚園》

○令和7年度においては、年中・年長児を対象とした英語活動を継続的に実施した。外国人講師との歌や手遊び、会話活動を通じて、子どもたちは楽しみながら英語に親しみ、挨拶や色、アルファベットなどの基礎的な表現を学んだ。活動を重ねる中で、積極的に発言する姿勢や異文化への関心も育まれた。遊びを通じた体験型学習により、言語習得だけでなくコミュニケーション能力の向上にもつながり、本園が目指す国際感覚を育む教育の推進に寄与した。



○プロマジシャン チャッピーさんを迎え、園内でマジックサイエンスショーを開催した。ショーでは、科学現象を活用した実験やパフォーマンスを通じて、子どもたちの知的好奇心を刺激した。重力や摩擦、空気の性質



などを身近に感じながら学ぶことで、「なぜだろう」「どうしてだろう」という探究心が育まれた。驚きと楽しさを伴う体験型学習は、科学への興味を高めるだけでなく、自ら考える力や観察力の育成にもつながった。本園が重視する主体的な学びを支える教育活動の一つとなった。

○令和 7 年 12 月 7 日(日)、クリスマス発表会を実施した。当日は、各学年の子どもたちが日頃の練習成果を保護者に披露した。歌や劇、ダンスなどの発表を通じて、表現力や創造力、自信を養うとともに、仲間と協力して一つの舞台をつくり上げる経験を積んだ。本番では緊張しながらも堂々と発表する姿が見られ、子どもたち一人ひとりの成長を実感できる機会となった。家庭と園が子どもの成長を共有する重要な行事として、大きな教育的意義を果たした。

《聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園》

○令和 7 年 10 月 6 日(月)、年長児が松山市の環境保全活動の一環として鹿島クリーン活動に参加した。園外へ出て自然環境に触れながら清掃活動を行うことで、地域社会への関心や環境を大切にする心を育む機会となった。事前に活動の目的や約束事を確認し、公共の場での行動について学んだほか、船で鹿島へ渡る体験を通して郷土への理解も深めることができた。幼児期から地域と関わりながら主体的に社会参加する姿勢を養う貴重な学習機会となった。



○令和 7 年度の制作展では、大阪・関西万博をテーマに掲げ、学年ごとに異なる国のパビリオン制作に取り組んだ。子どもたちは動画や図鑑などを活用して各国の文化や特徴を調べ、友達と協力しながら作品づくりを進めた。年長・年中児は万博の象徴である大屋根リングの共同制作にも挑戦し、「多様でありながら、ひとつ」という理念を学びながら表現活動を展開した。探究活動と造形表現を融合した教育実践として大きな成果を上げた。



○令和 8 年 3 月 5 日(木)、園児の体力向上と最後までやり遂げる力を育むことを目的として、「第 1 回マラソン大会」を実施した。本大会は、聖カタリナ大学健康社会学部健康スポーツ学科の協力のもと開催され、学生の皆様にも運営補助や園児への励ましなどを通じてご支援いただいた。園児たちは大会に向けて日頃から継続的に走る活動に取り組み、一人ひとりが目標を持って当日に臨んだ。当日は、友達や教職員、大学生からの温かい声援を受けながら、最後まで懸命に走る姿が見られた。また、異年齢の園児同士が互いに応援し合う場面も多く、挑戦する気持ちや仲間を思いやる心を育む機会となった。大学との連携により、園児にとってより充実した運動体験の場となるとともに、地域に開かれた教育活動の推進にもつながった。大会を通して、体力の向上だけでなく、達成感や自己肯定感を味わう有意義な機会となった。



《共 通》

○令和 8 年 2 月 2 日(月)、「第 17 回幼稚園連絡協議会」をに開催した。当日は、教職員の待遇改善に関し、法人本部から給与規程改正案の提案があり、協議の結果、原案どおり了承された。また、各幼稚園の経営状況について報告および情報共有を行うとともに、園児募集や人材確保など共通する課題への対応について意見交換を行い、今後の幼稚園運営に資する協議を行った。

IV. 財務の概要

(1) 令和7年度決算概要

令和7年度決算は、

・貸借対照表

- ① 正味財産額(=純資産の部合計)は128億60百万円となり、前年度比では3億46百万円減少した。

・事業活動収支計算書

- ② 教育活動収支差額は△3億7百万円となり、予算比では71百万円改善し、前年度比では38百万円減少した。
- ③ 経常収支差額は△3億9百万円となり、予算比では71百万円改善し、前年度比では35百万円減少した。
- ④ 基本金組入前当年度収支差額(学校経営の財務上の健全性を表す)は△3億46百万円となり、予算比では93百万円改善し、前年度比では1億25百万円減少した。
- ⑤ 当年度収支差額は△4億96百万円となり、予算比では2億39百万円改善し、前年度比では67百万円減少した。

・資金収支計算書

- ⑥ 資金収支差額(支払資金の増減)は△2億90百万円となり、予算比では96百万円減少し、前年度比では1億35百万円減少した。

・活動区分資金収支計算書

- ⑦ 教育活動資金収支差額は20百万円となり、予算比では3百万円改善し、前年度比では1億37百万円減少した。

【財務総括表】

(単位:千円)

収支差額区分	当年度(令和7年度)			前年度(令和6年度)	
	決算	予算	差異	決算	差異
①正味財産(純資産の部合計)	12,860,394			13,206,100	△ 345,706
②教育活動収支差額	△ 306,829	△ 377,381	70,552	△ 268,805	△ 38,024
③経常収支差額	△ 308,984	△ 380,394	71,410	△ 273,599	△ 35,385
④基本金組入前当年度収支差額	△ 345,706	△ 438,681	92,975	△ 220,842	△ 124,864
⑤当年度収支差額	△ 495,519	△ 734,335	238,816	△ 428,623	△ 66,896
⑥資金収支差額(支払資金の増減)	△ 289,867	△ 194,242	△ 95,625	△ 154,738	△ 135,129
⑦教育活動資金収支差額	19,524	16,465	3,059	156,682	△ 137,158

(注) 上表②～⑤は事業活動収支計算書、⑥は資金収支計算書、⑦は活動区分資金収支計算書における収支差額。

(2)令和 7 年度事業活動収支決算概要

① 教育活動収支差額 △3 億 7 百万円

教育活動収支においては、事業活動収入が 40 億 59 百万円、事業活動支出が 43 億 66 百万円（うち、賞与引当金繰入額 1 億 47 百万円、退職給与引当金繰入額 51 百万円、減価償却額 3 億 78 百万円）となり、教育活動収支差額は△3 億 7 百万円となった。予算比では 71 百万円改善した。同差額は、学校法人の本業である教育活動における収支バランスの健全性を表す重要指標であることから、赤字となっている設置校(部門)においては赤字幅縮小、黒字への早期転換が喫緊の課題である。

② 教育活動外収支差額 △2 百 16 万円

教育活動外収支においては、事業活動収入(受取利息・配当金)が 3 百 54 万円、事業活動支出(借入金等利息)が 5 百 69 万円となり、教育活動外収支差額は△2 百 16 万円となった。予算比では 85 万 7 千円改善した。

③ 経常収支差額(①+②) △3 億 9 百万円

①教育活動収支差額と②教育活動外収支差額の合計額である経常収支差額は△3 億 9 百万円となった。予算比では 71 百万円改善した。同差額は経常的な事業活動が安定的であるかどうかを判断する重要指標であるため、適正黒字の確保が重点的課題である。

④ 特別収支差額 △36 百 72 万円

特別収支においては、事業活動収入が 1 億 20 百万円(うち施設設備補助金 46 百万円)、事業活動支出が 1 億 57 百万円(うち資産処分差額 7 百万円、賞与引当金特別繰入額 1 億 41 百万円)となり、特別収支差額は△37 百万円となった。予算比では 21 百万円改善した。

⑤ 基本金組入前当年度収支差額(③+④) △3 億 46 百万円

基本金組入前当年度収支差額は△3 億 46 百万円となった。予算比では 93 百万円改善し、前年度比では 1 億 25 百万円減少した。また、「第 3 期中・長期経営計画(見直し後)」における当年度の同差額△3 億 27 百万円に対しては、19 百万円下回る結果となった。

⑥ 基本金組入(基本金組入額 1 億 50 百万円)

第 1 号基本金：	当期組入対象額	2 億 69 百万円
	うち、当期末組入高(△)	23 百万円
	過年度未組入に係る当期組入高	1 億 21 百万円
	当期取崩対象額(△)	2 億 18 百万円
第 4 号基本金：	当期組入対象額	1 百万円

⑦ 当年度収支差額 △4 億 96 百万円、翌年度繰越収支差額 △75 億 1 百万円

基本金組入後の当年度収支差額は△4 億 96 百万円(うち、賞与引当金繰入額 1 億 47 百万円、退職給与引当金繰入額 51 百万円、減価償却額 3 億 78 百万円、賞与引当金特別繰入額 1 億 41 百万円)となり、前年度繰越収支差額△70 億 6 百万円を合算した結果、翌年度繰越収支差額は△75 億 1 百万円となった。

注 改正後の学校法人会計基準(昭和 46 年文部省令第 18 号)の適用による影響

学校法人会計基準の改正により、引当金の計上基準が明確化されたことに伴い、当年度から賞与引当金を計上している。

これにより期首に計上すべき額として特別収支に 140,524,220 円を計上し、当年度に賞与として支給した額から特別収支の計上額を除いた額及び支給は翌年度であるが当年度の支給対象期間に相応する額として、人件費に 497,841,215 円を計上している。

この結果、従来の方と比べて教育活動収支差額、経常収支差額が 6,133,776 円減少し、基本金組入前当年度収支差額が 146,657,996 円減少している。

V. 当期に行った主な事業

(1) 固定資産の取得状況(第1号基本金組入れ対象事業)

※掲載対象:取得価額 5,000 千円以上

設置校(園)名	勘定科目	細 目	金 額 (千円)
聖カタリナ大学	教育研究用機器備品	AD サーバー他更新	5,240
	〃	プロキシサーバー他更新	5,240
	〃	市駅キャンパス PC 機器更新	17,295
	ソフトウェア	AWS 基盤構築費用 ※うち、7, 590 千円建設仮勘定から振替	8,250
	〃	GAKUEN グレードアップ費用 ※うち、5, 437 千円建設仮勘定から振替	24,750
聖カタリナ学園高等学校	建物	朝生田体育館空調設備新設工事(100 周年事業) ※補助対象事業	44,000
	構築物	駐車場整備工事(100 周年事業)	6,270
光ヶ丘女子高等学校	建物	ドミニコホール(体育館)空調設備新設工事 ※補助対象事業	56,760
	〃	特別教育棟職員トイレ改修工事	9,554

(2) 教育研究経費の主な事業実績

※掲載対象:取得価額 3,000 千円以上

設置校(園)名	細 目	金 額 (千円)
聖カタリナ大学・短期大学部	硬式野球部 全日本大学野球選手権大会出場関連経費	3,413
	日常・定期清掃業務委託費(北条&市駅キャンパス)	23,327
	運動部(野球・サッカー・女子バスケットボール部)外部指導者(監督・コーチ)業務委託費	13,580
光ヶ丘女子高等学校	本館(西側)ベランダ補修工事	7,260
	本館 生徒ホール外部補修工事	3,960
	模試・検定	9,783
聖マリア幼稚園	スクールバス運行委託手数料(2 台)	5,520
聖カタリナ幼稚園	スクールバス運行委託手数料(2 台)	5,430
ロザリオ幼稚園	スクールバス運行委託手数料(3 台)	9,695

(3) 管理経費の主な事業実績

※掲載対象:取得価額 3,000 千円以上

設置校(園)名	細 目	金 額 (千円)
学校法人	創立 100 周年記念式典費用	12,987
聖カタリナ大学・短期大学部	スクールバス運行料	31,936
	大学案内・ポスター・学科別パンフレット等	9,149
	松山市駅キャンパス警備委託料(常駐)	9,572
光ヶ丘女子高等学校	学校案内・募集要項他	4,878

VI. 計算書類

(1)貸借対照表（令和8年3月31日現在）

（単位：円）

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末(A)	前 年 度 末(B)	増 減(A)-(B)
固 定 資 産	13,601,743,019	13,675,951,670	△ 74,208,651
有形固定資産	12,543,183,166	12,677,480,964	△ 134,297,798
土 地	2,607,760,605	2,607,760,605	0
建 物	8,156,011,890	8,269,546,135	△ 113,534,245
構 築 物	420,221,338	454,906,300	△ 34,684,962
教育研究用機器備品	529,326,129	512,575,222	16,750,907
管理用機器備品	29,559,870	33,291,590	△ 3,731,720
図 書	785,260,350	779,020,605	6,239,745
車 両	15,042,984	20,380,507	△ 5,337,523
特定資産	1,014,000,000	969,000,000	45,000,000
その他の固定資産	44,559,853	29,470,706	15,089,147
流 動 資 産	1,887,581,308	2,122,598,502	△ 235,017,194
現 金 預 金	1,579,848,670	1,869,716,124	△ 289,867,454
その他の流動資産	307,732,638	252,882,378	54,850,260
資産の部合計	15,489,324,327	15,798,550,172	△ 309,225,845
負 債 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 負 債	1,810,635,298	1,908,912,619	△ 98,277,321
長期借入金	1,279,293,000	1,408,477,000	△ 129,184,000
長期未払金	20,001,410	4,079,350	15,922,060
退職給与引当金	511,340,888	496,356,269	14,984,619
流 動 負 債	818,295,293	683,537,973	134,757,320
短期借入金	129,184,000	129,184,000	0
賞与引当金	146,657,996	0	146,657,996
その他の流動負債	542,453,297	554,353,973	△ 11,900,676
負債の部合計	2,628,930,591	2,592,450,592	36,479,999
純 資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基 本 金	20,361,731,429	20,211,918,662	149,812,767
第 1 号 基 本 金	20,057,731,429	19,908,918,662	148,812,767
第 4 号 基 本 金	304,000,000	303,000,000	1,000,000
繰越収支差額	△ 7,501,337,693	△ 7,005,819,082	△ 495,518,611
翌年度繰越収支差額	△ 7,501,337,693	△ 7,005,819,082	△ 495,518,611
純資産の部合計	12,860,393,736	13,206,099,580	△ 345,705,844
負債及び純資産の部合計	15,489,324,327	15,798,550,172	△ 309,225,845

	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
◇正味財産(純資産の部合計(基本金+繰越収支差額))	12,860,393,736	13,206,099,580	△ 345,705,844

(2)事業活動収支計算書（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

（単位：円）

		科 目	予 算(A)	決 算(B)	差 異(A)-(B)
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	2,307,956,218	2,333,894,387	△ 25,938,169
		手数料	28,998,476	28,630,677	367,799
		寄付金	63,350,345	66,473,445	△ 3,123,100
		経常費等補助金	1,259,032,759	1,300,249,243	△ 41,216,484
		うち 国庫補助金	277,705,000	306,904,800	△ 29,199,800
		うち 地方公共団体補助金	981,327,759	993,344,443	△ 12,016,684
		付随事業収入	85,626,040	80,539,208	5,086,832
		雑収入	229,904,174	249,148,265	△ 19,244,091
		教育活動収入計	3,974,868,012	4,058,935,225	△ 84,067,213
	支出の部	人件費	2,807,366,060	2,815,234,179	△ 7,868,119
		うち 賞与引当金繰入額	152,451,279	146,657,996	5,793,283
		うち 退職給与引当金繰入額	49,649,691	50,756,619	△ 1,106,928
		教育研究経費	1,262,338,511	1,263,076,848	△ 738,337
		うち 減価償却額	320,478,448	325,350,331	△ 4,871,883
		管理経費	282,544,608	285,019,710	△ 2,475,102
		うち 減価償却額	53,893,055	53,118,918	774,137
		徴収不能額等	0	2,433,362	△ 2,433,362
		教育活動支出計	4,352,249,179	4,365,764,099	△ 13,514,920
	教育活動収支差額		△ 377,381,167	△ 306,828,874	△ 70,552,293
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	2,681,240	3,538,619	△ 857,379
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	2,681,240	3,538,619	△ 857,379
	支出の部	借入金等利息	5,694,045	5,694,045	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	5,694,045	5,694,045	0
	教育活動外収支差額		△ 3,012,805	△ 2,155,426	△ 857,379
経常収支差額		△ 380,393,972	△ 308,984,300	△ 71,409,672	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	97,666,950	120,400,012	△ 22,733,062
		施設設備補助金	43,516,000	40,812,416	2,703,584
	支出の部	特別収入計	97,666,950	120,400,012	△ 22,733,062
		資産 処分 差額	5,844,333	7,248,936	△ 1,404,603
		その他の特別支出	150,109,852	149,872,620	237,232
		うち 賞与引当金特別繰入額	141,723,452	140,524,220	1,199,232
		特別支出計	155,954,185	157,121,556	△ 1,167,371
特別収支差額		△ 58,287,235	△ 36,721,544	△ 21,565,691	
〔予備費〕		(7,750,000)		0	
基本金組入前当年度収支差額		△ 438,681,207	△ 345,705,844	△ 92,975,363	
基本金組入額合計		△ 295,653,344	△ 149,812,767	△ 145,840,577	
当年度収支差額		△ 734,334,551	△ 495,518,611	△ 238,815,940	
前年度繰越収支差額		△ 7,005,819,082	△ 7,005,819,082	0	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 7,740,153,633	△ 7,501,337,693	△ 238,815,940	
(参考)					
事業活動収入計		4,075,216,202	4,182,873,856	△ 107,657,654	
事業活動支出計		4,513,897,409	4,528,579,700	△ 14,682,291	

(3)資金収支計算書（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

（単位:円）

科 目	予 算(A)	決 算(B)	差 異(A)-(B)
学生生徒等納付金収入	2,307,956,218	2,333,894,387	△ 25,938,169
手数料収入	28,998,476	28,630,677	367,799
寄付金収入	106,866,345	107,285,861	△ 419,516
補助金収入	1,311,847,759	1,345,951,243	△ 34,103,484
国庫補助金収入	319,960,000	343,146,800	△ 23,186,800
地方公共団体補助金収入	991,887,759	1,002,804,443	△ 10,916,684
資産売却収入	70,000	59,520	10,480
付随事業・収益事業収入	85,626,040	81,044,885	4,581,155
受取利息・配当金収入	2,681,240	3,538,619	△ 857,379
雑収入	231,240,124	250,484,215	△ 19,244,091
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	231,127,500	214,380,932	16,746,568
その他の収入	275,900,887	211,008,464	64,892,423
資金収入調整勘定	△ 425,315,050	△ 505,042,409	79,727,359
前年度繰越支払資金	1,869,716,124	1,869,716,124	-
収入の部合計	6,026,715,663	5,940,952,518	85,763,145
人件費支出	2,781,551,542	2,794,115,784	△ 12,564,242
教育研究経費支出	941,860,063	937,726,517	4,133,546
管理経費支出	237,037,953	241,249,192	△ 4,211,239
借入金等利息支出	5,694,045	5,694,045	0
借入金等返済支出	129,184,000	129,184,000	0
施設関係支出	143,762,410	145,985,946	△ 2,223,536
設備関係支出	100,430,877	88,043,942	12,386,935
資産運用支出	55,000,000	45,000,000	10,000,000
その他の支出	183,568,849	207,118,499	△ 23,549,650
〔予備費〕	(7,750,000)		0
	(0)		
資金支出調整勘定	△226,848,313	△233,014,077	6,165,764
翌年度繰越支払資金	1,675,474,237	1,579,848,670	95,625,567
支出の部合計	6,026,715,663	5,940,952,518	85,763,145
資金収支差額	△194,241,887	△289,867,454	95,625,567

(4)活動区分資金収支計算書（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

(単位:円)

	科 目	金 額
教育活動による資金収支	学生生徒等納付金収入	2,333,894,387
	手数料収入	28,630,677
	特別寄付金収入	40,007,508
	一般寄付金収入	26,465,937
	経常費等補助金収入	1,300,249,243
	付随事業収入	81,044,885
	雑収入	249,148,265
	教育活動資金収入計	4,059,440,902
	人件費支出	2,794,115,784
	教育研究経費支出	937,726,517
	管理経費支出	231,900,792
	教育活動資金支出計	3,963,743,093
	差引	95,697,809
	調整勘定等	△76,173,895
	教育活動資金収支差額	19,523,914
施設整備等活動による資金収支	科 目	金 額
	施設設備寄付金収入	40,812,416
	施設設備補助金収入	45,702,000
	施設設備売却収入	59,520
	預託金回収収入	10,480
	施設整備等活動資金収入計	86,584,416
	施設関係支出	145,985,946
	設備関係支出	88,043,942
	減価償却引当特定資産繰入支出	45,000,000
	施設整備等活動資金支出計	279,029,888
	差引	△192,445,472
	調整勘定等	26,086,660
	施設整備等活動資金収支差額	△166,358,812
	小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△146,834,898
その他の活動による資金収支	科 目	金 額
	受取利息・配当金収入	3,538,619
	過年度修正収入	1,335,950
	その他収入	24,087,626
	立替金収入	23,689,890
	仮払金収入	397,736
	その他の活動資金収入計	28,962,195
	借入金等返済支出	129,184,000
	小計	129,184,000
	借入金等利息支出	5,694,045
	過年度修正支出	9,348,400
	預り金支出	27,811,177
	仮受金支出	700
	その他の活動資金支出計	172,038,322
	差引	△143,076,127
	調整勘定等	43,571
	その他の活動資金収支差額	△143,032,556
	支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△289,867,454
	前年度繰越支払資金	1,869,716,124
	翌年度繰越支払資金	1,579,848,670

注 記

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおりである。

(単位:円)

	資金収支 計算書計上額	教育活動 による資金収支	施設整備等活動 による資金収支	その他の活動 による資金収支
前受金収入	214,380,932	214,380,932	0	0
前期末未収入金収入	186,910,358	138,635,358	48,275,000	0
期末未収入金	△272,676,159	△243,656,159	△29,020,000	0
前期末前受金	△232,366,250	△232,366,250	0	0
収入計	△103,751,119	△123,006,119	19,255,000	0
前期末未払金支払支出	176,276,977	160,014,357	16,262,620	0
前払金支払支出	3,029,645	2,656,465	0	373,180
期末未払金	△226,095,556	△203,001,276	△23,094,280	0
前期末前払金	△6,918,521	△6,501,770	0	△416,751
支出計	△53,707,455	△46,832,224	△6,831,660	△43,571
収入計 - 支出計	△50,043,664	△76,173,895	26,086,660	43,571

VII. 財務状況経年推移(5 ヶ年)

1. 貸借対照表

(単位：円)

資 産 の 部					
科 目	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度
固 定 資 産	14,298,664,419	14,111,457,384	13,873,177,177	13,675,951,670	13,601,743,019
有 形 固 定 資 産	13,365,955,461	13,148,493,476	12,938,944,205	12,677,480,964	12,543,183,166
土 地	2,607,760,605	2,607,760,605	2,607,760,605	2,607,760,605	2,607,760,605
建 物	8,858,975,271	8,611,959,458	8,428,025,597	8,269,546,135	8,156,011,890
構 築 物	465,338,843	509,818,842	496,637,130	454,906,300	420,221,338
教育研究用機器備品	591,403,751	564,817,492	563,330,888	512,575,222	529,326,129
管理用機器備品	35,596,872	38,299,076	38,701,787	33,291,590	29,559,870
図 書	767,905,571	781,042,933	777,424,415	779,020,605	785,260,350
車 両	31,274,548	27,095,070	27,063,783	20,380,507	15,042,984
建設仮勘定	7,700,000	7,700,000	0	0	0
特 定 資 産	904,000,000	939,000,000	914,000,000	969,000,000	1,014,000,000
退職給与引当特定資産	10,000,000	10,000,000	0	0	0
設備資金引当特定資産	152,000,000	152,000,000	152,000,000	152,000,000	152,000,000
減価償却引当特定資産	742,000,000	777,000,000	762,000,000	817,000,000	862,000,000
そ の 他 の 固 定 資 産	28,708,958	23,963,908	20,232,972	29,470,706	44,559,853
電話加入権	2,856,908	2,856,908	2,856,908	2,856,908	2,856,908
施設利用権	103,680	95,040	86,400	77,760	69,120
ソフトウェア	19,553,540	14,776,080	11,040,454	7,283,528	35,419,095
ソフトウェア仮勘定	0	0	0	13,027,300	0
有価証券	5,619,410	5,619,410	5,619,410	5,619,410	5,619,410
敷 金	174,000	174,000	174,000	150,000	150,000
預 託 金	301,420	342,470	355,800	355,800	345,320
出 資 金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
流 動 資 産	2,556,992,094	2,312,650,686	2,248,113,019	2,122,598,502	1,887,581,308
現金預金	1,966,496,429	2,134,223,484	2,024,454,562	1,869,716,124	1,579,848,670
未収入金	575,172,383	150,602,572	151,192,159	186,910,358	270,242,797
貯 蔵 品	143,220	140,910	274,120	127,050	123,970
立 替 金	3,988,941	8,805,987	48,638,792	46,135,703	22,445,813
仮 払 金	330	1,314,535	2,404,579	1,612,389	1,214,653
前 払 金	3,403,147	9,067,804	13,528,180	10,046,451	6,157,575
販売用品	7,787,644	8,495,394	7,620,627	8,050,427	7,547,830
資産の部合計	16,855,656,513	16,424,108,070	16,121,290,196	15,798,550,172	15,489,324,327
負 債 の 部					
科 目	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度
固 定 負 債	2,311,068,676	2,178,876,931	2,034,468,202	1,908,912,619	1,810,635,298
長期借入金	1,792,029,000	1,674,845,000	1,537,661,000	1,408,477,000	1,279,293,000
長期未払金	32,348,706	15,733,110	7,314,670	4,079,350	20,001,410
退職給与引当金	486,690,970	488,298,821	489,492,532	496,356,269	511,340,888
流 動 負 債	963,963,633	695,801,413	659,880,280	683,537,973	818,295,293
短期借入金	297,184,000	117,184,000	137,184,000	129,184,000	129,184,000
未 払 金	165,095,672	137,749,646	126,414,036	176,276,977	210,173,496
前 受 金	340,698,570	282,675,684	238,511,263	232,366,250	214,380,932
預 り 金	160,976,164	158,183,005	157,755,896	145,698,135	117,886,958
仮 受 金	9,227	9,078	15,085	12,611	11,911
修学旅行費積立預り金	0	0	0	0	0
賞与引当金	0	0	0	0	146,657,996
負債の部合計	3,275,032,309	2,874,678,344	2,694,348,482	2,592,450,592	2,628,930,591
純 資 産 の 部					
科 目	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度
基 本 金	19,537,432,008	19,780,496,970	20,004,137,512	20,211,918,662	20,361,731,429
第 1 号 基 本 金	19,235,432,008	19,477,496,970	19,701,137,512	19,908,918,662	20,057,731,429
第 4 号 基 本 金	302,000,000	303,000,000	303,000,000	303,000,000	304,000,000
繰 越 収 支 差 額	△ 5,956,807,804	△ 6,231,067,244	△ 6,577,195,798	△ 7,005,819,082	△ 7,501,337,693
翌年度繰越収支差額	△ 5,956,807,804	△ 6,231,067,244	△ 6,577,195,798	△ 7,005,819,082	△ 7,501,337,693
純資産の部合計	13,580,624,204	13,549,429,726	13,426,941,714	13,206,099,580	12,860,393,736
負債及び純資産の部合計	16,855,656,513	16,424,108,070	16,121,290,196	15,798,550,172	15,489,324,327
減価償却額の累積額の合計額	7,539,845,613	7,740,262,402	8,064,757,137	8,411,736,504	8,581,825,102
基本金未組入額	1,519,671,812	1,428,986,936	1,316,547,592	1,203,544,302	1,105,621,962

2. 事業活動収支計算書

(単位：円)

科 目		2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,625,642,857	2,665,802,752	2,587,544,938	2,485,619,807	2,333,894,387
	手数料	43,604,483	34,486,597	29,811,973	30,590,427	28,630,677
	寄付金	46,763,908	57,099,102	55,255,810	99,131,281	66,473,445
	経常費等補助金	1,380,600,470	1,426,973,315	1,362,178,694	1,250,132,046	1,300,249,243
	付随事業収入	87,581,621	94,228,994	78,523,234	76,703,705	80,539,208
	雑収入	196,756,245	141,799,010	189,488,671	251,526,202	249,148,265
	教育活動収入計	4,380,949,584	4,420,389,770	4,302,803,320	4,193,703,468	4,058,935,225
	事業活動支出の部					
	人件費	2,898,536,455	2,889,920,851	3,008,176,933	2,935,822,327	2,815,234,179
	教育研究経費	1,217,264,025	1,270,171,939	1,161,468,890	1,261,669,650	1,263,076,848
	(内、減価償却費)	(327,557,394)	(345,267,303)	(352,187,975)	(351,351,118)	(325,350,331)
	管理経費	330,284,819	255,802,141	254,812,654	260,755,409	285,019,710
	(内、減価償却費)	(51,720,290)	(52,604,835)	(53,309,846)	(53,774,746)	(53,118,918)
	徴収不能額等	1,925,600	8,059,100	4,191,453	4,260,800	2,433,362
	教育活動支出計	4,448,010,899	4,423,954,031	4,428,649,930	4,462,508,186	4,365,764,099
教育活動収支差額		△ 67,061,315	△ 3,564,261	△ 125,846,610	△ 268,804,718	△ 306,828,874
教育活動外収支	事業活動外収入の部					
	受取利息・配当金	846,735	614,028	562,069	1,350,650	3,538,619
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	846,735	614,028	562,069	1,350,650	3,538,619
	事業活動外支出の部					
	借入金等利息	5,628,267	6,960,395	6,538,772	6,145,377	5,694,045
特別収支	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	5,628,267	6,960,395	6,538,772	6,145,377	5,694,045
教育活動外収支差額		△ 4,781,532	△ 6,346,367	△ 5,976,703	△ 4,794,727	△ 2,155,426
経常収支差額		△ 71,842,847	△ 9,910,628	△ 131,823,313	△ 273,599,445	△ 308,984,300
特別収支	事業活動外収入の部					
	資産売却差額	100,000	0	0	22,000	0
	その他の特別収入	387,674,151	54,671,890	54,816,801	73,422,969	120,400,012
	特別収入計	387,774,151	54,671,890	54,816,801	73,444,969	120,400,012
	事業活動外支出の部					
	資産処分差額	88,598,949	75,933,740	45,481,500	20,687,658	7,248,936
特別収支	その他の特別支出	314,580	22,000	0	0	149,872,620
	特別支出計	88,913,529	75,955,740	45,481,500	20,687,658	157,121,556
特別収支差額		298,860,622	△ 21,283,850	9,335,301	52,757,311	△ 36,721,544
基本金組入前当年度収支差額		227,017,775	△ 31,194,478	△ 122,488,012	△ 220,842,134	△ 345,705,844
基本金組入額合計		△ 602,513,154	△ 243,064,962	△ 223,640,542	△ 207,781,150	△ 149,812,767
当年度収支差額		△ 375,495,379	△ 274,259,440	△ 346,128,554	△ 428,623,284	△ 495,518,611
前年度繰越収支差額		△ 5,581,312,425	△ 5,956,807,804	△ 6,231,067,244	△ 6,577,195,798	△ 7,005,819,082
基本金取崩額		0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額		△ 5,956,807,804	△ 6,231,067,244	△ 6,577,195,798	△ 7,005,819,082	△ 7,501,337,693
事業活動収入		4,769,570,470	4,475,675,688	4,358,182,190	4,268,499,087	4,182,873,856
事業活動支出		4,542,552,695	4,506,870,166	4,480,670,202	4,489,341,221	4,528,579,700
事業活動収支差額		227,017,775	△ 31,194,478	△ 122,488,012	△ 220,842,134	△ 345,705,844
経常収入		4,381,796,319	4,421,003,798	4,303,365,389	4,195,054,118	4,062,473,844
経常支出		4,453,639,166	4,430,914,426	4,435,188,702	4,468,653,563	4,371,458,144
経常収支差額		△ 71,842,847	△ 9,910,628	△ 131,823,313	△ 273,599,445	△ 308,984,300

◇人件費内訳

(単位：円)

科 目		2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度
人件費	教員人件費	2,192,745,410	2,230,022,256	2,283,766,358	2,258,374,863	2,024,500,285
	職員人件費	534,202,004	545,572,940	564,246,317	532,154,187	498,708,973
	役員報酬	8,640,000	9,780,000	9,850,000	9,200,000	11,000,000
	(小計)	2,735,587,414	2,785,375,196	2,857,862,675	2,799,729,050	2,534,209,258
	賞与引当金繰入額	0	0	0	0	146,657,996
	退職職金	109,041,826	62,193,804	104,232,249	98,440,561	83,610,306
	退職給与引当金繰入額	53,907,215	42,351,851	46,082,009	37,652,716	50,756,619
合 計		2,898,536,455	2,889,920,851	3,008,176,933	2,935,822,327	2,815,234,179

3. 資金収支計算書

(単位：円)

科 目		2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	2,625,642,857	2,665,802,752	2,587,544,938	2,485,619,807	2,333,894,387
	手数料収入	43,604,483	34,486,597	29,811,973	30,590,427	28,630,677
	寄付金収入	55,985,832	69,327,602	65,180,510	118,930,742	107,285,861
	補助金収入	1,757,146,470	1,467,674,315	1,405,588,694	1,300,325,046	1,345,951,243
	資産売却収入	100,000	20,000	0	70,000	59,520
	付随事業・収益事業収入	87,759,323	93,523,554	79,434,291	76,420,975	81,044,885
	受取利息・配当金収入	846,735	614,028	562,069	1,350,650	3,538,619
	雑収入	197,589,749	141,799,010	188,520,358	254,401,202	250,484,215
	借入金等収入	560,000,000	0	0	0	0
	前受金収入	340,698,570	282,675,684	238,511,263	232,366,250	214,380,932
	その他の収入	534,616,157	575,181,128	230,608,579	153,401,995	211,008,464
	資金収入調整勘定	△ 902,323,423	△ 499,359,472	△ 438,059,296	△ 428,572,978	△ 505,042,409
	前年度繰越支払資金	2,238,925,861	1,966,496,429	2,134,223,484	2,024,454,562	1,869,716,124
収入の部合計		7,540,592,614	6,798,241,627	6,521,926,863	6,249,358,678	5,940,952,518
支出の部	人件費支出	2,893,739,240	2,888,313,000	3,006,014,909	2,928,958,590	2,794,115,784
	教育研究経費支出	889,678,631	924,904,636	809,280,915	910,318,532	937,726,517
	管理経費支出	278,879,109	203,219,306	201,502,808	206,980,663	241,249,192
	借入金等利息支出	5,628,267	6,960,395	6,538,772	6,145,377	5,694,045
	借入金等返済支出	177,137,000	297,184,000	117,184,000	137,184,000	129,184,000
	施設関係支出	1,156,877,694	173,361,855	143,030,926	117,250,094	145,985,946
	設備関係支出	93,550,414	76,473,548	93,355,587	55,854,413	88,043,942
	資産運用支出	10,000,000	35,000,000	55,000,000	55,000,000	45,000,000
	その他の支出	221,895,253	183,423,396	187,091,388	142,285,722	207,118,499
	資金支出調整勘定	△ 153,289,423	△ 124,821,993	△ 121,527,004	△ 180,334,837	△ 233,014,077
支出の部合計		7,540,592,614	6,798,241,627	6,521,926,863	6,249,358,678	5,940,952,518
資金収入		5,301,666,753	4,831,745,198	4,387,703,379	4,224,904,116	4,071,236,394
資金支出		5,574,096,185	4,664,018,143	4,497,472,301	4,379,642,554	4,361,103,848
資金収支差額		△ 272,429,432	167,727,055	△ 109,768,922	△ 154,738,438	△ 289,867,454

◇人件費内訳

(単位：円)

科 目		2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度
人件費支出	教員人件費支出	2,192,745,410	2,230,022,256	2,283,766,358	2,258,374,863	2,140,729,123
	職員人件費支出	534,202,004	545,572,940	564,246,317	532,154,187	523,004,355
	役員報酬	8,640,000	9,780,000	9,850,000	9,200,000	11,000,000
	(小計)	2,735,587,414	2,785,375,196	2,857,862,675	2,799,729,050	2,674,733,478
	退職金支出	158,151,826	102,937,804	148,152,234	129,229,540	119,382,306
	合計	2,893,739,240	2,888,313,000	3,006,014,909	2,928,958,590	2,794,115,784

◇学生・生徒・園児数&教職員数

(単位：人)

内 訳		2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度
学生・生徒・園児数	学生・生徒・園児数	4,174	4,175	3,928	3,581	3,285
	大学・短期大学部	1,036	1,045	1,009	922	829
	3 高校	2,499	2,525	2,360	2,134	1,957
	5 幼稚園	639	605	559	525	499
教職員数	教職員数	712	711	733	713	673
	常勤	333	333	338	326	302
	非常勤	379	378	395	387	371

4. 活動区分資金収支計算書

(単位:円)

区 分	部 門		2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度	2025(R7)年度
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	2,625,642,857	2,665,802,752	2,587,544,938	2,485,619,807	2,333,894,387
		手数料収入	43,604,483	34,486,597	29,811,973	30,590,427	28,630,677
		特別寄付金収入	34,562,560	34,817,728	34,910,116	62,361,346	40,007,508
		一般寄付金収入	12,173,348	22,281,374	20,176,194	36,769,935	26,465,937
		経常費等補助金収入	1,380,600,470	1,426,973,315	1,362,178,694	1,250,132,046	1,300,249,243
		付随事業収入	87,759,323	93,523,554	79,434,291	76,420,975	81,044,885
		雑収入	196,423,209	141,799,010	188,520,358	251,526,202	249,148,265
		教育活動資金収入計	4,380,766,250	4,419,684,330	4,302,576,564	4,193,420,738	4,059,440,902
	支出	人件費支出	2,893,739,240	2,888,313,000	3,006,014,909	2,928,958,590	2,794,115,784
		教育研究経費支出	889,678,631	924,904,636	809,280,915	910,318,532	937,726,517
		管理経費支出	278,564,529	203,197,306	201,502,808	206,980,663	231,900,792
教育活動資金支出計		4,061,982,400	4,016,414,942	4,016,798,632	4,046,257,785	3,963,743,093	
差引		318,783,850	403,269,388	285,777,932	147,162,953	95,697,809	
調整勘定等		2,965,406	△ 7,892,262	△ 46,926,461	9,519,115	△ 76,173,895	
教育活動資金収支差額 ①		321,749,256	395,377,126	238,851,471	156,682,068	19,523,914	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	9,249,924	12,228,500	10,094,200	19,799,461	40,812,416
		施設設備補助金収入	376,546,000	40,701,000	43,410,000	50,193,000	45,702,000
		施設設備売却収入	100,000	20,000	0	70,000	59,520
		減価償却引当特定資産取崩収入	100,000,000	0	70,000,000	0	0
		預託金回収収入	0	9,510	0	0	10,480
		施設整備等活動資金収入計	485,895,924	52,959,010	123,504,200	70,062,461	86,584,416
	支出	施設関係支出	1,156,877,694	173,361,855	143,030,926	117,250,094	145,985,946
		設備関係支出	93,550,414	76,473,548	93,355,587	55,854,413	88,043,942
		減価償却引当特定資産繰入支出	10,000,000	35,000,000	55,000,000	55,000,000	45,000,000
		預託金支出	68,390	50,560	0	0	0
		施設整備等活動資金支出計	1,260,496,498	284,885,963	291,386,513	228,104,507	279,029,888
		差引	△ 774,600,574	△ 231,926,953	△ 167,882,313	△ 158,042,046	△ 192,445,472
		調整勘定等	△ 237,539,306	316,544,876	△ 26,292,288	△ 5,608,290	26,086,660
施設整備等活動資金収支差額 ②	△ 1,012,139,880	84,617,923	△ 194,174,601	△ 163,650,336	△ 166,358,812		
小 計 (①+②)		△ 690,390,624	479,995,049	44,676,870	△ 6,968,268	△ 146,834,898	
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	560,000,000	0	0	0	0
		退職給与引当特定資産取崩収入	0	0	10,000,000	0	0
		小計	560,000,000	0	10,000,000	0	0
		受取利息・配当金収入	846,735	614,028	562,069	1,350,650	3,538,619
		過年度修正収入	1,166,540	0	0	2,875,000	1,335,950
		預り金収入	30,190,162	0	0	0	0
		立替金収入	8,213,231	0	0	2,503,089	23,689,890
		仮払金収入	555,152	0	6,007	792,190	397,736
		仮受金収入	1,119	0	0	0	0
		修学旅行積立預金収入	45,358,782	5	0	0	0
		敷金戻入収入	59,000	0	0	24,000	0
		その他の活動資金収入計	646,390,721	614,033	10,568,076	7,544,929	28,962,195
	支出	借入金等返済支出	177,137,000	297,184,000	117,184,000	137,184,000	129,184,000
		小計	177,137,000	297,184,000	117,184,000	137,184,000	129,184,000
		借入金等利息支出	5,628,267	6,960,395	6,538,772	6,145,377	5,694,045
		過年度修正支出	314,580	22,000	0	0	9,348,400
		預り金支出	0	2,793,159	427,109	12,057,761	27,811,177
		立替金支出	0	4,817,046	39,832,805	0	0
		仮払金支出	0	1,314,205	1,090,044	0	700
		仮受金支出	0	149	0	2,474	0
		修学旅行積立預金支出	23,158,689	5	0	0	0
		修学旅行積立預り金支出	22,200,093	0	0	0	0
		その他の活動資金支出計	228,438,629	313,090,959	165,072,730	155,389,612	172,038,322
		差引	417,952,092	△ 312,476,926	△ 154,504,654	△ 147,844,683	△ 143,076,127
		調整勘定等	9,100	208,932	58,862	74,513	43,571
		その他の活動資金収支差額	417,961,192	△ 312,267,994	△ 154,445,792	△ 147,770,170	△ 143,032,556
支払資金の増減額		△ 272,429,432	167,727,055	△ 109,768,922	△ 154,738,438	△ 289,867,454	
前年度繰越支払資金		2,238,925,861	1,966,496,429	2,134,223,484	2,024,454,562	1,869,716,124	
翌年度繰越支払資金		1,966,496,429	2,134,223,484	2,024,454,562	1,869,716,124	1,579,848,670	

5. 財務比率表

財務比率は、計算書の科目間の比率を算出して、経年推移の確認や全国平均との比較を行い、財務状況の分析に利用するものです。

(注)[参考値]は、「今日の私学財政 ～令和7年度版～」(日本私立学校振興・共済事業団)より転載。医歯系法人を除く大学法人の令和6年度全国平均値。また、[評価指標]は、△ 高いほうがよい ▼ 低いほうがよい ～ どちらともいえない を表す。

分類	比 率	計 算 式	参考値	評価指標	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)
貸借対照表関係比率	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	88.4%	△	80.6%	82.5%	83.3%	83.6%	83.0%
	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	97.6%	△	92.8%	93.3%	93.8%	94.4%	94.8%
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	97.4%	▼	105.3%	104.1%	103.3%	103.6%	105.8%
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	90.9%	▼	90.0%	89.7%	89.7%	90.5%	92.7%
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	265.6%	△	265.3%	332.4%	340.7%	310.5%	230.7%
	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	377.0%	△	577.2%	755.0%	848.8%	804.6%	736.9%
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	11.6%	▼	19.4%	17.5%	16.7%	16.4%	17.0%
	負債率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	13.1%	▼	24.1%	21.2%	20.1%	19.6%	20.4%
	積立率	$\frac{\text{運用資産要積立額}}{\text{要積立額}}$	74.9%	△	35.8%	37.4%	34.4%	31.9%	28.6%
事業活動収支計算書関係比率	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	50.9%	▼	66.1%	65.4%	69.9%	70.0%	69.3%
	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	70.7%	▼	110.4%	108.4%	116.3%	118.1%	120.6%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	37.3%	△	27.8%	28.7%	27.0%	30.1%	31.1%
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	8.9%	▼	7.5%	5.8%	5.9%	6.2%	7.0%
	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	11.4%	～	8.5%	9.0%	9.1%	9.1%	8.7%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	72.0%	△	59.9%	60.3%	60.1%	59.3%	57.5%
	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	2.0%	△	1.3%	1.7%	1.7%	2.3%	1.6%
	経常寄付金比率	$\frac{\text{経常寄付金}}{\text{経常収入}}$	1.6%	△	1.1%	1.3%	1.3%	2.4%	1.6%
	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	15.0%	△	32.6%	35.8%	35.2%	29.3%	31.1%
	経常補助金比率	$\frac{\text{経常費等補助金}}{\text{経常収入}}$	14.7%	△	31.5%	32.3%	31.7%	29.8%	32.0%
	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	10.0%	～	12.6%	5.4%	5.1%	4.9%	3.6%
	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差}}{\text{事業活動収入}}$	3.3%	△	4.8%	-0.7%	-2.8%	-5.2%	-8.3%
	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	2.7%	△	-1.6%	-0.2%	-3.1%	-6.5%	-7.6%
	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	0.3%	△	-1.5%	-0.1%	-2.9%	-6.4%	-7.6%
資金収支	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	11.4%	△	7.3%	8.9%	5.6%	3.7%	0.5%

(注) 1 運用資産＝特定資産＋有価証券(固定資産)＋有価証券(流動資産)＋現金預金

2 外部負債＝借入金＋学校債＋未払金＋手形債務

3 要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋第2号基本金＋第3号基本金

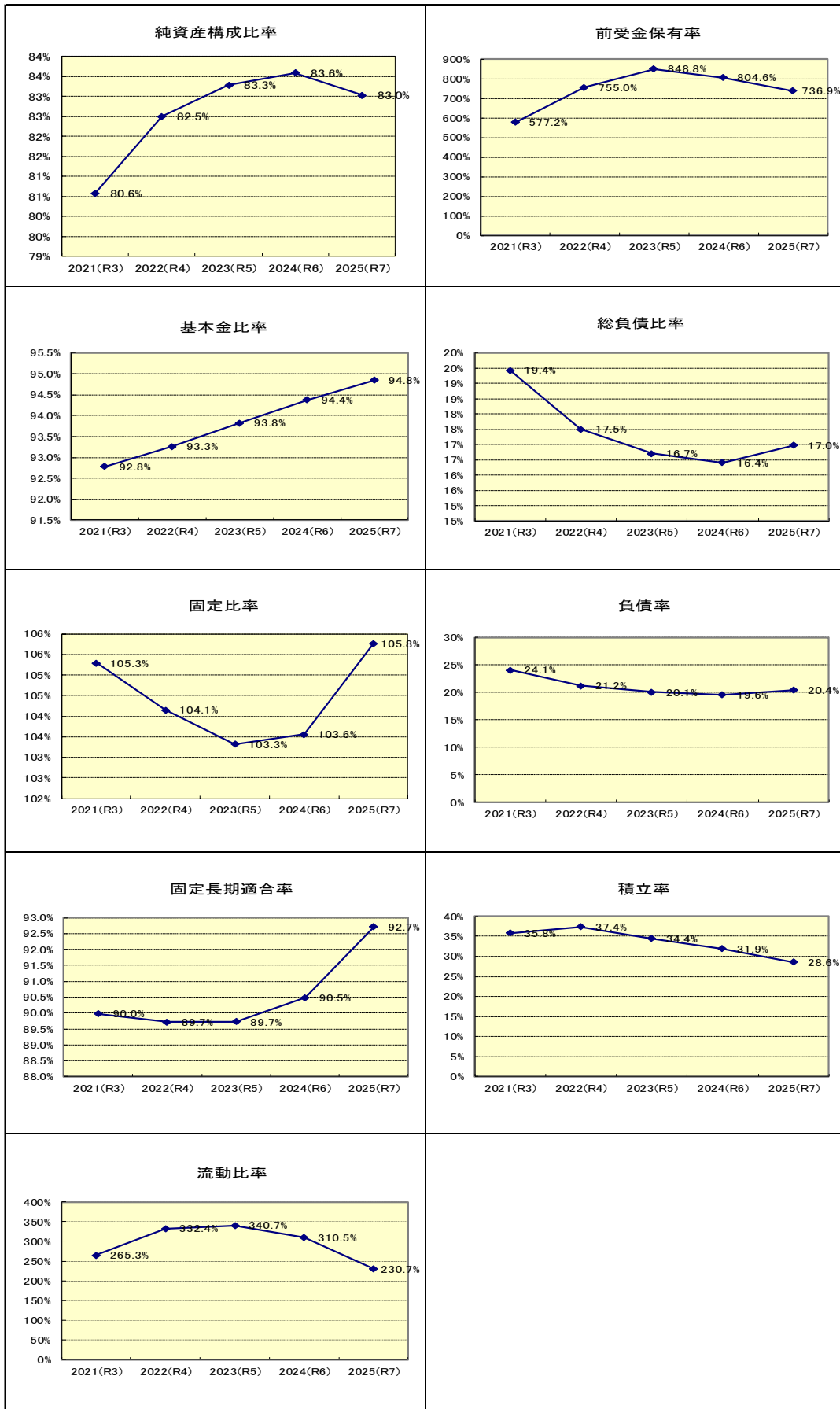
(参考) 主な財務比率について

※「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)に拠る。

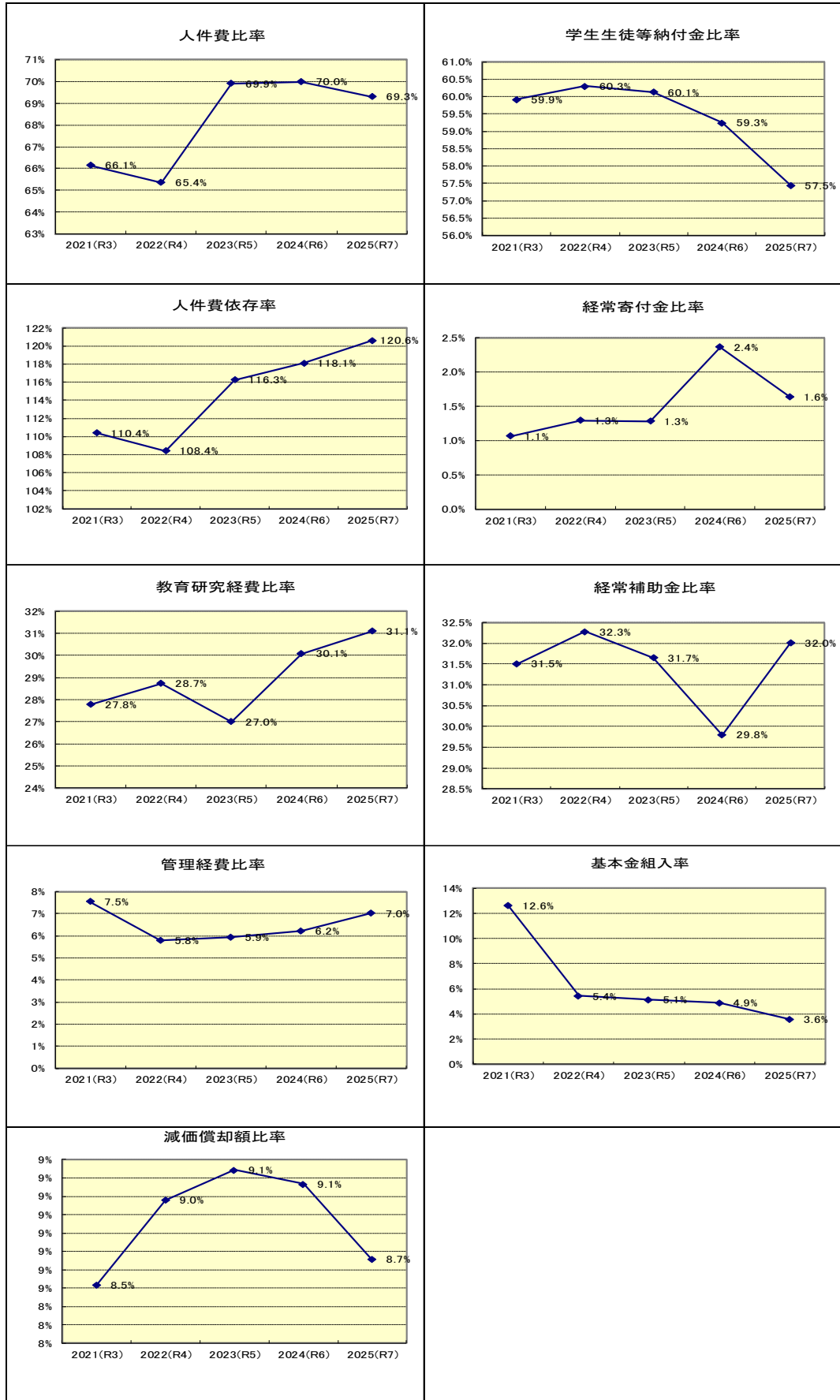
分類	比 率 名	比 率 の 意 味
貸借対照表	純 資 産 構 成 比 率	純資産の「総負債及び純資産の合計額」に占める構成割合で、学校法人の資金の調達源泉を分析する上で、最も概括的で重要な指標。この比率が高い場合は、自己財源が充実していることを示し、財政的には安定していると評価できる。
	基 本 金 比 率	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済み基本金の割合。この比率は100%が上限であり、100%に近いほど未組入額が少ないことを表している。未組入額があることはすなわち借入金又は未払金をもって基本金組入対象資産を取得していることを意味しているため、100%に近いことが望ましいが、繰越収支差額が支出超過となっている場合は注意を要する。
	固 定 比 率	固定資産の純資産に対する割合で、土地・建物・施設等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか、すなわち資金の調達源泉とその使途とを対比させる比率である。
	固 定 長 期 適 合 率	固定資産の、純資産と固定負債の合計値である長期資金に対する割合で、固定比率を補完する役割を担う比率である。固定資産の取得を行う場合、長期間活用できる安定した資金として自己資金のほか短期的に返済を迫られない長期借入金でこれを賄うべきという原則に対してどの程度適合しているかを示している。この比率は100%以下で、低いほど理想的とされる。
	流 動 比 率	流動負債に対する流動資産の割合。一年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現金預金又は一年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する重要な指標の一つである。一般に金融機関等では、この比率が200%以上であれば優良とみなしている。
	前 受 金 保 有 率	前受金と現金預金との割合で、当該年度に収受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率で、100%を超えることが一般的とされている。
	総 負 債 比 率	固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資本の比重を評価する極めて重要な比率である。この比率は一般的に低いほど望ましく、100%を超えると負債総額が資産総額を上回る状態、いわゆる債務超過であることを示す。
	負 債 率	他人資金と自己資金との割合で、他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないかを測る比率であり、100%以下で低いほうが望ましい。
	積 立 率	学校法人の経営を持続的且つ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。一般的には比率は高い方が望ましいが、学校法人の将来計画等にも影響されるため、この算定式から得られる結果のみに捉われず各学校法人の状況に応じた試算を併用することも比率の活用の上では重要である。
事業活動収支計算書	人 件 費 比 率	人件費の経常収入に占める割合。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化につながる要因ともなる。各学校の実態に適った水準を維持する必要がある。
	人 件 費 依 存 率	人件費の学生生徒等納付金に占める割合。この比率は人件費比率及び学生生徒等納付金比率の状況にも影響される。一般的に人件費は学生生徒等納付金で賄える範囲内に収まっている(比率が100%を超えないこと)が理想的であるが、例えば高等学校においては学費軽減の観点から相当規模の補助金が交付されており、相対的に学生生徒等納付金が低い水準に抑えられている場合は、分母に補助金を加えて「修正人件費依存率」として評価することも有用である。
	教 育 研 究 経 費 比 率	教育研究経費の経常収入に占める割合。教育研究経費には修繕費、光熱水費、消耗品費、委託費、旅費交通費、印刷製本費等の各種支出に加え教育研究用固定資産にかかる減価償却費が含まれている。これらの経費は教育研究活動の維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましい。
	管 理 経 費 比 率	経常収入に対する管理経費の占める割合。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出はやむを得ないものの、比率としては低いほうが望ましい。

分類	比 率 名	比 率 の 意 味
事業活動収支計算書	減 価 償 却 額 比 率	減価償却額の経常支出に占める割合で、当該年度の経常支出のうち減価償却額がどの程度の水準にあるかを測る比率である。一方で、減価償却額は経費に計上されているが実際の資金支出は伴わないものであるため、別の視点では実質的には費消されずに蓄積される資金の割合を示したものと捉えることも可能である。
	学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	学生生徒等納付金の経常収入に占める割合。学生生徒等納付金は学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の事業活動収入のなかで最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることの少ない重要な自己財源であることから、この比率が安定的に推移することが望ましい。
	寄 付 金 比 率	寄付金の事業活動収入に占める割合。寄付金は私立学校にとって重要な収入源であり、一定水準の寄付金収入を継続して確保することが経営の安定のためには好ましいことである。今後の学校経営においては、学内の寄付金募集体制を充実させ、一定水準の寄付金の安定的な確保に努めることの重要性が高まっている。
	経 常 寄 付 金 比 率	上記寄付金比率につき経常的な要素に限定した比率である。
	補 助 金 比 率	国又は地方公共団体の補助金の事業活動収入に占める割合。学校法人において、補助金は一般的に学生生徒等納付金に次ぐ第二の収入源泉であり、今や必要不可欠なものである。しかし、この比率が高い場合、学校法人独自の自主財源が相対的に小さく、国や地方公共団体の補助金政策の動向に影響を受けやすいこととなるため、場合によっては学校経営の柔軟性が損なわれる可能性も否定できない。
	経 常 補 助 金 比 率	上記補助金比率につき経常的な要素に限定した比率である。
	基 本 金 組 入 率	事業活動収入の総額から基本金への組入れ状況を示す比率。大規模な施設等の取得等を単年度に集中して行った場合は、一般的にこの比率が上昇することとなる。学校法人の諸活動に不可欠な資産の充実のためには、基本金への組入れが安定的に行われることが望ましい。したがってこの比率の評価に際しては、基本金の組入れ内容が単年度の固定資産の取得によるものか、第2号基本金や第3号基本金にかかる計画的な組入れによるものか等の組入れの実態を確認しておく必要がある。
	事 業 活 動 収 支 差 額 比 率	事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合であり、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。マイナスとなった場合、その要因が臨時的なものによる場合は別として、一般的にマイナス幅が大きくなるほど経営が圧迫され、将来的には資金繰りに支障をきたす可能性が否めない。
	経 常 収 支 差 額 比 率	経常的な収支バランスを表す比率。この比率がプラスで大きいほど経常的な収支は安定していることを示すが、逆にマイナスになる場合は、将来的な学校法人財政の不安要素となる。
資金収支	教 育 活 動 収 支 差 額 比 率	本業である教育活動の収支バランスを表す比率。この比率がプラスで大きいほど教育活動部分の収支は安定していることを示し、マイナスになる場合は、教育活動において資産の流出が生じていることを意味する。
	教 育 活 動 資 金 収 支 差 額 比 率	教育活動資金収支差額の教育活動資金収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率。比率はプラスであることが望ましいが、「その他の活動」でキャッシュフローを生み出し、教育研究活動の原資としている場合もあり得るため、「その他の活動」の収支状況を併せて確認する必要がある。

財務比率(貸借対照表関係)

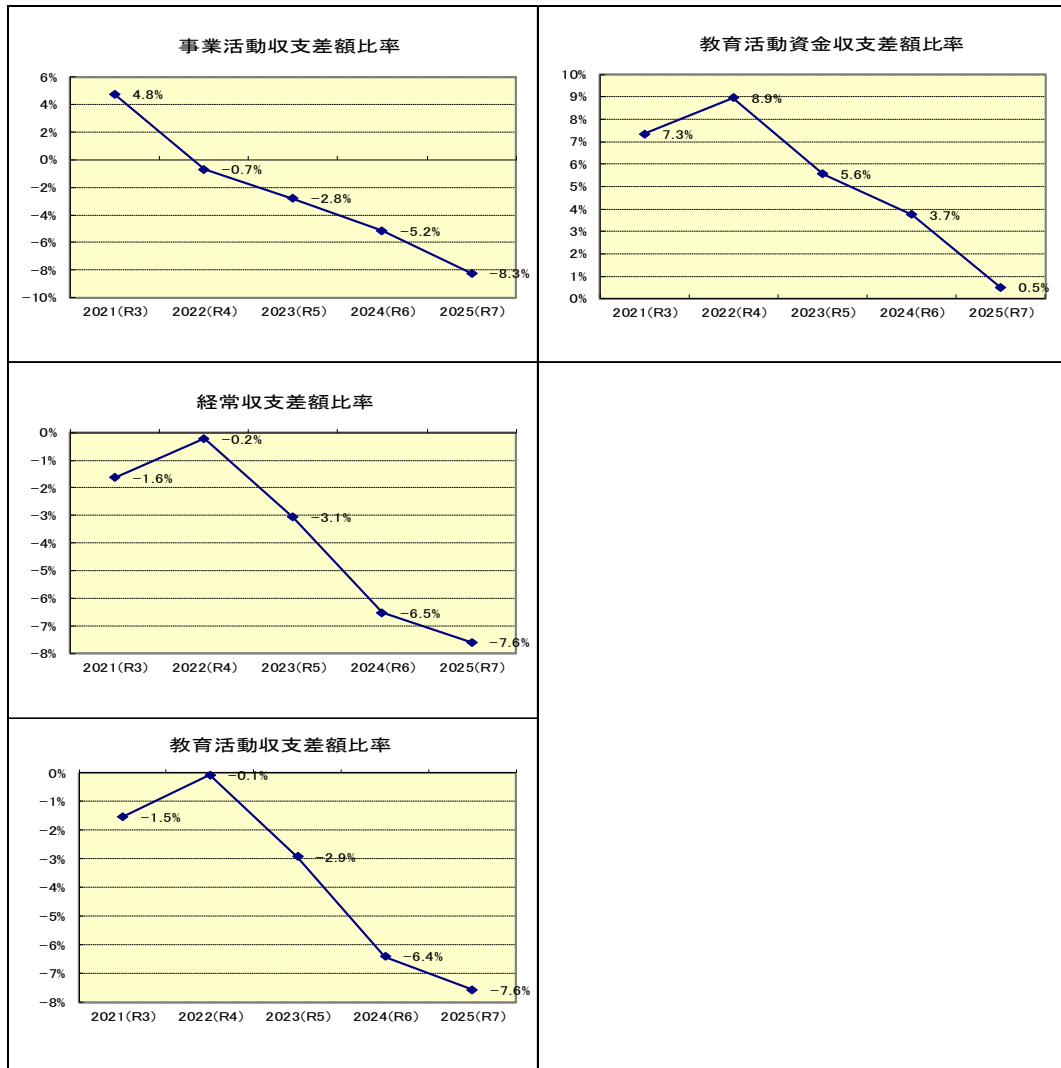


財務比率(事業活動収支関係)



財務比率(事業活動収支関係)

財務比率(活動区分資金収支関係)



【参考】学校法人会計基準について

学校法人は、一般事業法人と異なり、利益の稼得を目的にした組織ではありません。学生生徒や社会に対して、教育研究活動を通じた人材育成という崇高な使命を負った社会性、公共性の高い存在です。しかしながら、「経営」という視点を欠き、過大な設備投資や場当たりの運営を続けていると、収入と支出のバランスを失い、経営基盤の不健全化を招き、場合によっては、存続すら危うくなってしまいます。

こういった事態を防ぐために、経営の実態を会計面から適時、的確に把握できるよう、一定の会計処理ルールが定められています。それが、昭和 46 年に文部省令第 18 号として制定された「学校法人会計基準」です。

また、私立学校法の一部を改正する法律(令和 5 年法律第 21 号)により、補助金の適正配分を主な目的として私立学校振興助成法に位置づけられていた「学校法人会計基準」は、ガバナンス強化の観点から、ステークホルダーへの情報開示を主な目的とする基準として、私立学校法に位置づけられました。

これに伴い、「学校法人会計基準の一部を改正する省令(令和 6 年文部科学省令第 28 号)」及び「私立学校振興助成法施行規則(令和 6 年文部科学省令第 29 号)」が令和 6 年 9 月 30 日に公布され、令和 7 年 4 月 1 日から施行され、令和 7 年度以降の予算・決算に適用されています。

以下は、現行の「学校法人会計基準」に関する解説です。

1) 計算書類について

貸借対照表

一定時点(本学は3月末現在)の資産・負債・純資産(基本金と繰越収支差額の合計)の内容及び在り高を明示し、財産の状態を表します。

事業活動収支計算書

当該会計年度の事業活動収入(学校の負債とならない収入)及び事業活動支出(現預金の支出を伴わない減価償却額や退職給与引当金繰入額などを含む)の内容を表すとともに、基本金組入前及び基本金組入後の収支均衡状態を明らかにします。また、「区分経理」により、収支を経常的収支と臨時的収支に、経常的収支を教育活動収支と教育活動外収支に分けて表示することになりました。

【基本金について】

基本金とは、学校法人会計基準第 12 条において、「学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その事業活動収入のうちから組み入れた金額を基本金とする。」と規定されており、次の第1号から第4号に該当するものです。なお、「その諸活動の計画に基づき必要な資産」とは、教育研究活動に必要な校地、校舎、機器備品、図書等のことで、すべて自己資金による取得が基本金の条件となっています。

第1号基本金：学校法人が教育研究活動に供するために自己資金により取得した土地、建物、設備等の固定資産の価額

第2号基本金：新たな学校・学部の設定や施設設備等の規模拡充に伴う将来の固定資産取得に備えた資金の先行組入額

第3号基本金：奨学基金や研究基金等の積立額。その運用果実により教育研究活動を支援するための資金

第4号基本金：恒常的に保持すべき資金として、学校法人会計基準により定められた金額

資金収支計算書

当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を表すとともに、当該会計年度の支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金)の収入及び支出の顛末を表します。

活動区分資金収支計算書

資金収支計算書の決算額を 3 つの活動、すなわち、「教育活動」、「施設整備等活動」、「その他の活動」に区分し、活動区分ごとの資金収支を明らかにします。この計算書は、会計基準改正に伴い平成 27 年度から作成が義務付けられましたが、様式の特性から、決算時のみ所轄庁へ提出することになっています。

2)勘定科目について

計算書類で使用する勘定科目とその内容は次の通りです。

①貸借対照表の勘定科目

勘定科目名	内 容
有形固定資産	土地・建物・構築物・機器備品・図書・車両・建設仮勘定等
特定資産	使途が特定された預金等をいう。会計基準の改正に伴い、「第 2 号基本 金」に対応する資産として「第 2 号基本金引当特定資産」が新設された。
その他の固定資産	ソフトウェア、長期に保有する有価証券、長期未収入金など
流動資産	現金預金、未収入金、一時的に保有する有価証券、立替金、仮払金、前 払金など
資産の部合計	—
固定負債	長期借入金、長期未払金、退職給与引当金など
流動負債	短期借入金、未払金、前受金、預り金、仮受金など
負債の部合計	—
基本金	第 1 号から第 4 号基本金(※既述)
繰越収支差額	事業活動収支差額の累積額
純資産の部合計	会計基準の改正に伴い、基本金と繰越収支差額の合計を表す「純資産の 部合計」が新設された。
負債及び純資産の部合計	—

②事業活動収支計算書の勘定科目

勘定科目名	内 容
教育活動収支	学生生徒等納付金
	手数料
	寄付金
	経常費等補助金
	付随事業収入
	雑収入
	教育活動収入計
	人件費
	教育研究経費
	管理経費
	徴収不能額等
	教育活動支出計
	教育活動収支差額

教育活動外収支	受取利息・配当金	第3号基本金引当特定資産の運用による収入のほか、預金や貸付金等の利息、株式の配当金等による収入
	その他の教育活動外収入	収益事業会計からの繰入収入
	教育活動外収入計	—
	借入金等利息	日本私立学校振興・共済事業団や銀行等、金融機関からの借入による収入
	その他の教育活動外支出	為替換算差額などの支出
	教育活動外支出計	—
	教育活動外収支差額	経常的な収支のうち、財務活動による収支状況を表す。
経常収支差額		教育活動収支差額と教育活動外収支差額の合計。経常的な事業活動による収入とコストの収支バランスを表す。特別収支を除いた収支差額であるため、経常的な事業活動が安定的であるか否かを判断する指標となる。
特別収支	資産売却差額	資産売却収入が当該資産の帳簿残高を超える場合に、その超過額を計上する。
	その他の特別収入	施設設備拡充等のための寄付金、施設設備の受贈額、施設設備拡充等のための補助金、及び過年度修正額などによる収入
	特別収入計	—
	資産処分差額	資産の帳簿残高が当該資産の売却収入金額を超える場合に、その超過額を計上する。
	その他の特別支出	災害損失や過年度修正額などによる支出
	特別支出計	—
	特別収支差額	資産売却・処分、施設設備寄付金、施設設備補助金などの臨時的な収支を表す。
	〔予 備 費〕	予算化されていない突発的な事象に対応するために計上する額
基本金組入前 当年度収支差額		事業活動収入から事業活動支出を差し引いた額。学校法人に基本金を組み入れる余力がどの程度あるのかを判断する指標。単年度における事業活動全体の収支バランス(従前の「帰属収支差額」)を把握するため、会計基準の改正の伴い、新たに表示されることになった。
基本金組入額合計		第1号から第4号までの基本金組入額の合計。学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額。
当年度収支差額		長期の収支バランスを表す(従前の「〇年度消費収入(支出)超過額」)。
前年度繰越収支差額		
翌年度繰越収支差額		

(参考)

事業活動収入計	従前の「消費収支計算書」における帰属収入に当たり、借入金収入や前受金収入などの負債となる収入を除いた学校法人における正味の収入を表す。
事業活動支出計	従前の「消費収支計算書」における消費支出に当たり、資金支出を伴わない減価償却費や各種引当金、資産処分差額等が含まれ、学校法人の正味の費用を表す。

③資金収支計算書の勘定科目

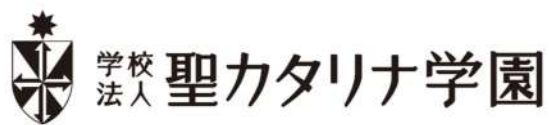
勘 定 科 目		内 容
収入の部	学生生徒等納付金収入	②事業活動収支計算書と同じ
	手数料収入	②事業活動収支計算書と同じ
	寄付金収入	金銭その他の資産を寄贈者から贈与されたもので、用途指定がある寄付金を「特別寄付金収入」、用途指定がない寄付金を「一般寄付金収入」として計上する。
	補助金収入	国や地方公共団体などから交付される補助金収入
	資産売却収入	学校法人が保有する固定資産を売却した際の収入で、実際の売却額を計上する。

	付随事業・収益事業収入	食堂・売店・学生寮等、教育活動に付随する活動に係る事業の収入のほか、外部から委託を受けた研究等による収入や収益事業会計からの繰入収入
	受取利息・配当金収入	②事業活動収支計算書と同じ
	雑収入	②事業活動収支計算書と同じ
	借入金等収入	②事業活動収支計算書と同じ
	前受金収入	翌年度分の授業料・入学金等が当年度に納入された収入で、主に新入生の入学手続きが入学年度の前の年度中に行われるため、前受金収入として計上する。
	その他の収入	各種特定資産からの繰入収入や前期末未収入金収入、預り金収入、立替金収入、仮払金収入など、上記の各収入以外の収入
	資金収入調整勘定	当年度の諸活動に対応する収入だが、実際の資金の収入が前年度以前または翌年度以降のもので、前期末前受金と期末未収入金としてそれぞれ計上する。
前年度繰越支払資金		前年度から繰り越された現預金の残高
収入の部 合計		—
支出の部	人件費支出	教職員に対する本俸、期末手当、その他の手当、所定福利費、退職金財団等掛金、退職金及び役員に支払う報酬
	教育研究経費支出	学校法人の主たる目的である教育研究活動や学生生徒等の学習支援などのために支出する経費で、消耗品費、光熱水費、旅費交通費、奨学費、通信運搬費、印刷費、施設設備修理費、賃借料、報酬・委託・手数料などがある。
	管理経費支出	学校法人の管理運営のために支出する経費で、役員の行う業務執行のために要する経費や、総務・人事・財務その他法人業務に要する経費、教職員の福利厚生のための経費、教育研究活動以外に使用する施設設備の修繕・維持・保全に要する経費、学生生徒等の募集のために要する経費などがある。
	借入金等利息支出	借入金等の利息に係る支出
	借入金等返済支出	借入金等の元金の返済に係る支出
	施設関係支出	土地・建物・構築物等の取得に係る支出
	設備関係支出	機器備品や図書、車両、ソフトウェア(資産計上されるもの)等の取得に係る支出
	資産運用支出	運用目的で有価証券を購入した場合や各種特定資産に繰り入れる際に計上する。
	その他の支出	前期末未払金の支払支出や預り金、立替金、仮払金など、上記以外の支出
	[予備費]	②事業活動収支計算書と同じ
資金支出調整勘定		当年度の諸活動に対応する支出だが、実際の資金の支出が前年度以前または翌年度以降のもので、前期末前払金と期末未払金としてそれぞれ計上する。
翌年度繰越支払資金		翌年度へ繰り越される現預金の残高
支出の部 合計		—

VIII. 附属明細書

本事業報告には、寄附行為第 68 条第 1 項第 2 号に規定する附属明細書に該当の事項はありません。





令和7年度事業報告書

学校法人聖カタリナ学園 法人本部事務局
〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地
TEL 089-993-1300 FAX 089-992-5616
URL <https://www.catherine.ac.jp/gakuen/>